敷島町文化財調査報告　第24集
（山 梨 県）

金 の 尾 遺 跡 Ⅳ

遊技場建設事業に伴う
縄文時代・弥生時代・古墳時代遺跡の発掘調査報告書

2004
敷 島 町 教 育 委 員 会
敷 島 町 文 化 財 調 査 会

敷島町文化財調査報告　第24集
（山 梨 県）

金 の 尾 遺 跡 Ⅳ

遊技場建設事業に伴う
縄文時代・弥生時代・古墳時代遺跡の発掘調査報告書

2004
敷 島 町 教 育 委 員 会
敷 島 町 文 化 財 調 査 会

序　　文

私たちが暮らす敷島町は、甲府盆地の北西部にあり、南北に細長く、北部は茅ヶ岳、黒富士火山などの山岳地帯で、南部は荒川によって形成された扇状地から成っています。また、北東側には自然の地形が織り成す風光明媚な特別名勝御岳昇仙峡が優美な姿を創りだし、人々に愛されております。

さて、近年開発行為が増加しこれに伴う埋蔵文化財の発掘調査が全国各地で数多く行われています。これは、本町も例外ではなく、国民共有の財産であり、また町の財産でもある先人の残した足跡について調査・記録を行い、これらの情報を永久に保存し後世に語り伝えていく努力がなされています。

このたび、報告することとなりました「金の尾遺跡」は昭和52年に中央自動車道建設に伴って、はじめて発掘調査が実施され、今から約1,800年前の弥生時代後期にあたる遺跡であることが判明し、その内容は山梨県を代表するきわめて貴重な遺跡であることが明らかとなりました。

今回は4回目の調査になりますが、ちょうど昭和52年の調査の北側延長部分でもあったことから、さらなる遺跡の広がりや弥生時代の墓域をはじめとする新たな内容が豊富に追加され、大きな成果を上げることができました。

今後も、私たちの町の誇れる財産となるよう調査をおこなっていくとともに、これらの貴重な資料が今後の研究、教育、生涯学習の資として活用していただければ幸いです。

最後に、開発者の文化財保護に対する深いご理解とご協力の下、調査が実施できましたことに感謝するとともに、ご指導、ご協力頂きました関係各位に心より厚く御礼申し上げ序といたします。

平成16年7月

敷島町教育委員会
教育長　山　口　正　智

例　　言

1．本報告書は、山梨県中巨摩郡敷島町大下条地区に所在する金の尾遺跡の発掘報告書である。
2．本調査は、民間遊技場の開発に伴って実施した発掘調査である。発掘調査から報告書刊行までの経費は、有限会社　昭和企画が負担した。
3．発掘調査は、平成５年（1993年）10月18日～平成６年（1994年）５月９日までの約６ヶ月半にわたって行った。その後、整理作業は、断続的に行った。
4．調査にあたった組織は、次のとおりである。

調査主体者　敷島町教育委員会
調査担当者　発掘作業　大嶌正之（敷島町教育委員会生涯教育課社会教育係副主査）
伊藤正彦（調査補助員・現甲府市教育委員会）
整理作業　大嶌正之（敷島町教育委員会生涯教育課社会教育係副主査）
小坂隆司（敷島町教育委員会生涯教育課社会教育係嘱託）
調査事務局　敷島町文化財調査会

5．本書の遺構および遺物の実測・トレースを大嶌、小坂の指示のもと飯室久美恵、石川弘美、長田由美子、小林明美、関本芳子、高添美智子、山路宏美が行った。
掲載写真の遺跡全景および遺構の一部は株式会社スカイサーベイ、その他の遺構を大嶌が撮影し、遺物写真の撮影および図版編集は小坂が行った。最終校正を大嶌が行った。
6．発掘調査ならびに報告書作成にあたり、次の方々より御教示をいただいた。ここにご芳名を記し、感謝申し上げる。（順不同、敬称略）
羽中田壯雄（敷島町文化財審議会）、中山誠二、保坂和博（山梨県教育委員会）、末木　健、宮里　学、村石眞澄（山梨県埋蔵文化財センター）、山下孝司、問間俊明（韮崎市教育委員会）、山口正憲（葉山町教育委員会）、降矢哲男（九州大学大学院生）
7．発掘調査ならびに整理作業参加者（五十音順、敬称略）
浅川松子、飯室久美恵、石川弘美、石橋二三江、井富保仁、居村道夫、上野理恵、長田由美子、長田竜也、尾沢玉枝、加藤智恵子、兼子よし子、北原和江、河野宏紀、小林明美、小林邦隆、三枝延子、清水光子、末松福江、関本芳子、高添美智子、近浦正治、近浦澄子、中込　崇、保坂広昭、保延　勇、三井やよい、三井裕子、山路宏美、山本多美子、若月すみ子
8．本遺跡の出土遺物および調査で得られたすべての記録については一括して敷島町教育委員会に保管してある。

凡　　例

1．本書の第１図は国土地理院発行の地形図（１：25,000）「甲府市北部」「韮崎」「甲府」「小笠原」の各一部分を用いて作成したものである。
2．遺物挿図中、断面が白抜きは土器・土師器・土師質土器で、■は須恵器、□は陶器類、■は磁器、器面の■は朱塗りである。また、遺構挿図中の▨は焼土跡を表している。
3．遺物観察表中、計測値の（　）は推定の大きさを表す。
4．図版中、遺構と遺物は縮尺が統一されていない。

本 文 目 次

序 文
例 言・凡 例
第1章 遺跡をとりまく環境
1．遺跡の立地と環境 …… 1
2．周辺遺跡と歴史的背景 …… 1
第2章 遺構と遺物
1．縄文時代
A．住居跡 …… 6
B．竪穴状遺構 …… 8
C．集石遺構 …… 9
D．土 坑 …… 10
2．弥生時代
A．住居跡 …… 11
B．周溝墓 …… 12
C．3号土坑 …… 21
D．5号溝状遺構 …… 21
3．古墳時代
A．竪穴状遺構 …… 23
B．周溝墓 …… 25
C．低墳丘墓 …… 30
D．住居跡 …… 31
E．土 坑 …… 34
4．時期不明の遺構
A．土 坑 …… 36
B．溝状遺構 …… 38
第3章 遺構外出土遺物 …… 42
第4章 まとめ …… 51

挿 図 目 次

第1図 金の尾遺跡と周辺の遺跡 …… 2
第2図 調査区位置図 …… 5
第3図 遺構配置図 …… 5
第4図 3号住居跡 …… 6
第5図 3号住居跡出土遺物 …… 7
第6図 4号竪穴状遺構と出土遺物 …… 8
第7図 1・2号集石遺構と2号集石遺構出土遺物 …… 9
第8図 1・2号土坑と出土遺物 …… 10
第9図 2号住居跡と出土遺物 …… 11
第10図 1号周溝墓と出土遺物 …… 12
第11図 4号周溝墓と出土遺物 …… 13
第12図 5号周溝墓出土遺物 …… 14
第13図 5号周溝墓 …… 15・16
第14図 6号周溝墓と出土遺物 …… 17
第15図 8号周溝墓と出土遺物 …… 18
第16図 9号周溝墓と出土遺物 …… 19
第17図 9号周溝墓内発見の集石遺構 …… 19
第18図 3号土坑と出土遺物 …… 21
第19図 5号溝状遺構 …… 21
第20図 5号溝状遺構出土遺物 …… 22
第21図 1号竪穴状遺構と出土遺物 …… 23
第22図 2号竪穴状遺構と出土遺物 …… 23
第23図 3号竪穴状遺構と出土遺物 …… 24
第24図 3号周溝墓 …… 25
第25図 3号周溝墓 周溝内上坑と出土遺物 …… 26
第26図 3号周溝墓 北側周溝内出土遺物分布図 …… 26
第27図 3号周溝墓 北側周溝内出土遺物 …… 27
第28図 7号周溝墓と出土遺物 …… 28
第29図 2号周溝墓と出土遺物 …… 30
第30図 1号住居跡 …… 31
第31図 1号住居跡出土の遺物分布図 …… 32
第32図 1号住居跡出土遺物(1) …… 32
第33図 1号住居跡出土遺物(2) …… 33
第34図 4号土坑と出土遺物 …… 34
第35図 5～7号土坑と7号土坑出土遺物 …… 35
第36図 8～17号土坑 …… 36
第37図 14・15号土坑出土遺物 …… 37
第38図 溝状遺構(1) …… 38
第39図 溝状遺構(2) …… 39
第40図 溝状遺構出土遺物 …… 40
第41図 遺構外出土遺物(1)縄文前期後半～中期初頭 …… 42
第42図 遺構外出土遺物(2)縄文中期 …… 43
第43図 遺構外出土遺物(3)縄文中期 …… 44
第44図 遺構外出土遺物(4)縄文後期・弥生 …… 45
第45図 遺構外出土遺物(5)土師器 …… 46
第46図 遺構外出土遺物(6)土師器・須恵器・陶磁器・土製品 …… 47
第47図 遺構外出土遺物(7)石器・石製品・鉄製品 …… 48
第48図 金の尾遺跡南部第1・Ⅳ次調査区 …… 52

表　目　次

第1表　3号住居跡出土遺物……7
第2表　4号竪穴状遺構出土遺物……9
第3表　2号集石遺構出土遺物……9
第4表　1号土坑出土遺物……11
第5表　2号土坑出土遺物……11
第6表　2号住居跡出土遺物……11
第7表　1号周溝墓出土遺物……20
第8表　4号周溝墓出土遺物……20
第9表　5号周溝墓出土遺物……20
第10表　6号周溝墓出土遺物……20
第11表　8号周溝墓出土遺物……20
第12表　9号周溝墓出土遺物……20
第13表　3号土坑出土遺物……22
第14表　5号溝状遺構出土遺物……22
第15表　1号竪穴状遺構出土遺物……24
第16表　2号竪穴状遺構出土遺物……24
第17表　3号竪穴状遺構出土遺物……24
第18表　1～3号竪穴状遺構一覧……25
第19表　3号周溝墓　周溝内土坑出土遺物……29
第20表　3号周溝墓　北側周溝出土遺物……29
第21表　7号周溝墓出土遺物……29
第22表　2号周溝墓出土遺物……30
第23表　1号住居跡出土遺物……33
第24表　4～7号土坑一覧……34
第25表　4号土坑出土遺物……35
第26表　7号土坑出土遺物……35
第27表　8～17号土坑一覧……37
第28表　14号土坑出土遺物……37
第29表　15号土坑出土遺物……37
第30表　1～4・6～15号溝状遺構一覧……41
第31表　溝状遺構出土遺物……41
第32表　遺構外出土遺物(1)……49
第33表　遺構外出土遺物(2)……50

図　版　目　次

図版1　遺跡全景
図版2－1　3号住居跡
図版2－2　3号住居跡遺物出土状態
図版2－3　4号竪穴状遺構
図版2－4　4号竪穴状遺構遺物出土状態
図版2－5　1号集石遺構
図版2－6　2号集石遺構完掘
図版2－7　2号土坑
図版2－8　1号土坑
図版2－9　1号土坑断面
図版3　縄文時代遺構内出土遺物
図版4－1　2号住居跡
図版4－2　2号住居跡出土遺物
図版4－3　周溝墓群
図版4－4　1号周溝墓
図版4－5　1号周溝墓遺物出土状態
図版4－6　4号周溝墓
図版4－7　4号周溝墓遺物出土状態(1)
図版4－8　4号周溝墓遺物出土状態(2)
図版5－1　5号周溝墓
図版5－2　5号周溝墓遺物出土状態(1)
図版5－3　5号周溝墓遺物出土状態(2)
図版5－4　5号周溝墓　断面
図版5－5　6号周溝墓
図版6－1　8号周溝墓
図版6－2　9号周溝墓
図版6－3　9号周溝墓遺物出土状態
図版6－4　9号周溝墓内集石遺構
図版6－5　5号溝状遺構
図版6－6　5号溝状遺構遺物出土状態
図版6－7　3号土坑
図版7　弥生時代遺構内出土遺物
図版8－1　1号竪穴状遺構
図版8－2　2号竪穴状遺構
図版8－3　3号竪穴状遺構
図版8－4　3号周溝墓
図版8－5　7号周溝墓
図版8－6　2号周溝墓
図版8－7　1号住居跡
図版8－8　1号住居跡　炭化材および遺物出土状態
図版9－1　4号土坑
図版9－2　5号土坑
図版9－3　6号土坑
図版9－4　7号土坑
図版9－5　古墳時代遺構内出土遺物(1)
図版10　古墳時代遺構内出土遺物(2)
図版11－1　9号土坑
図版11－2　10号土坑
図版11－3　11号土坑
図版11－4　12号土坑
図版11－5　14号土坑
図版11－6　16号土坑
図版11－7　1号溝状遺構
図版11－8　2号溝状遺構
図版11－9　6号溝状遺構
図版11－10　7号溝状遺構
図版11－11　3～5号溝状遺構
図版12－1　8～14号溝状遺構
図版12－2　15号溝状遺構
図版12－3　溝状遺構出土遺物
図版12－4　5号溝状遺構出土遺物
図版13－1　遺構外出土遺物（縄文1）
図版13－2　遺構外出土遺物（縄文2）
図版13－3　遺構外出土遺物（縄文3）
図版13－4　遺構外出土遺物（弥生）
図版13－5　遺構外出土遺物（古墳）
図版13－6　遺構外出土遺物（古墳～近世）
図版13－7　遺構外出土遺物（石器1）
図版13－8　遺構外出土遺物（石器2）

第１章　遺跡をとりまく環境

１．遺跡の立地と環境（第１図）

敷島町が所在する甲府盆地の北西部は、奥秩父の金峰山を源として南流する荒川によって開析され緩やかに北から南へと傾斜する扇状地形となっている。この一帯の西側には、北西部にそびえる茅ヶ岳の裾部を形成するなだらかな赤坂台地が貢川と釜無川に挟まれるように南北に張り出して伸びており、JR中央線付近に至り終息している。一方、北側にはこの扇状地形の背後を担うように東西に大きく片山が跨り、さらにその東側には千代田湖を挟んで尾根筋を南側へと進むと舌状に張り出した湯村山がある。

荒川によって形成されたこの扇状地形はあたかも台地と山々が三方を「コ」字状に取り囲むようにして盆地に向かって開口しており、それはまるで天然の要害を連想させるような特殊な地形を成している。

このうち敷島町は荒川の右岸に位置し、町域は南北約17km、東西約４kmと南北に細長い町である。町は大きく北部の山間地帯と南部の荒川扇状地とにおおよそ大別され、町域のほぼ８～９割は標高1,704mを測る茅ヶ岳をはじめとする曲岳、太刀岡山などの山岳地帯や一部の丘陵からなっている。

一方、町南部は上述した荒川による扇状地形で、東はちょうど荒川右岸に面し、西は貢川を境として東西を河川で挟まれ南北に細長くなっている。そして、近年宅地開発などが頻繁で人口も増加の一途を辿っている。

このように敷島町南部が所在する甲府盆地の北西部は周囲の自然地形によって東西北部の三方を台地と丘陵により囲まれた空間が形成されており、荒川右岸に位置する本町ではこのような地形をもとに様々な歴史的背景が垣間見られる。

２．周辺遺跡と歴史的背景（第１図）

近年もっとも頻繁に発掘調査がおこなわれている町南部の遺跡について時代ごとに概観していくこととする。代表的な遺跡としては９遺跡が上げられる。

ここでは、平成13年度までにおこなってきた調査成果についても踏まえてみていく。

縄文時代　町内では現在のところ旧石器時代の遺跡は確認されておらず、人々が生活していた最も古い痕跡は縄文時代である。今回報告するものを含めるとこれまで11軒の住居跡が調査されている。

代表的な遺跡には、金の尾遺跡(1)、原腰遺跡(2)、松ノ尾遺跡(7)などが上げられる。

原腰遺跡では前期末の住居跡が1軒発見され、この時期には稀な埋甕炉を有している。

松ノ尾遺跡は半安時代の大規模な集落跡として有名だが、第Ⅲ次調査で中期中葉の住居跡１軒がみつかり、深鉢、ミニチュア土器、打製石斧、磨製石斧など多くの遺物が出土している。

金の尾遺跡は、これまでに計６回の調査がおこなわれ、とくに1987年の中央高速自動車道建設における第Ⅰ次調査で弥生時代の集落跡とともに縄文時代の住居跡計８軒（前期末１軒、中期７軒）が調査された。

弥生時代　金の尾遺跡があり、居住域と墓域をともに兼ね備えた弥生時代後期の遺跡である。

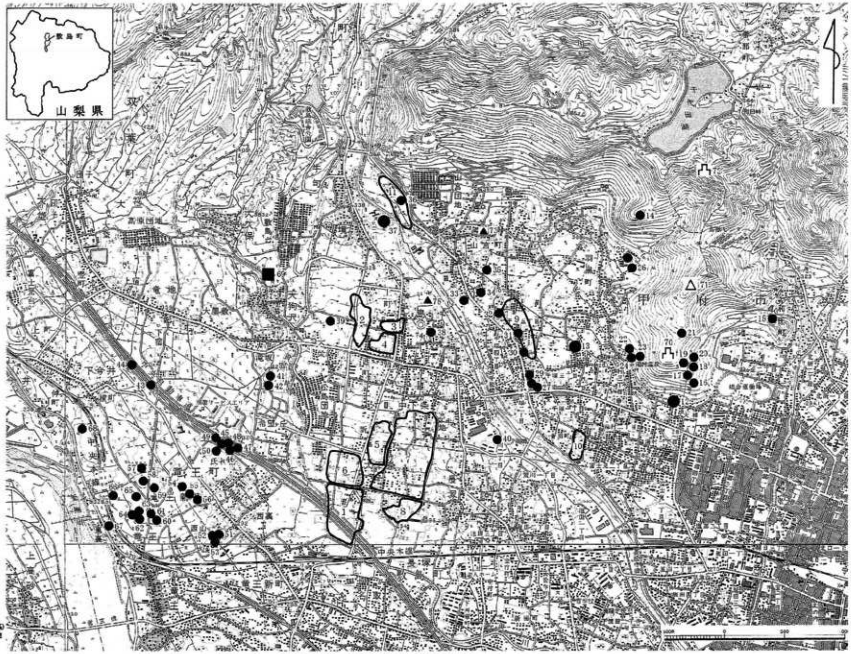
本遺跡は県内で最も古い時期の方形周溝墓群を有し、県内外を代表する大変重要な遺跡である。

第Ⅰ次調査では住居跡32軒、方形・円形周溝墓17基をはじめ、集落跡を二分するとみられるＶ字の溝などが発見され、遺物では中部高地系の土器と東海系統のものがともに出土していることから学術的にも貴重な資料を提供している。

後述する今回の報告では北部の様相についてさらに新たな内容を追加できることとなった。

古墳時代　これまで６遺跡においてその存在が確認されている。

前期の遺跡は、原腰遺跡(2)、一味堂遺跡(5)、松ノ尾遺跡(7)、末法遺跡(8)、御岳田遺跡(6)、金の尾遺跡(1)などが上げられる。各遺跡ともＳ字状の台付甕、壺、高坏などが多く出土しており、広範囲の調査となった原腰遺跡では６軒の住居跡が確認されている。御岳田遺跡（Ⅰ次）では遺跡内の落ち込みから水晶の原石８点と水晶


1 金の尾
2 原屋
3 山宮竜
4 村尾
5 三崎金
6 鳳凰山
7 松ノ尾
8 茶臼
9 横田
16 愛宕
17 茶臼
12 万寿森古墳
13 加中荒屋古墳
14 おでんくさん古墳
15 三北寺山古墳
16 横村山1号古墳
17 横村山2号古墳
18 横村山3号古墳
19 横村山4号古墳
20 横村山5号古墳
21 横村山6号古墳
22 大平1号古墳
23 大平2号古墳
24 城天荒屋名橋
25 大屋古墳
26 無名塚古墳
27 鳳凰塚古墳
28 加天塚古墳
29 高屋古墳
30 猫屋古墳
31 無名3号墳
32 子改塚古墳
33 無名1号墳
34 天神塚古墳
35 天屋古墳
36 天原古墳
37 大屋古墳
38 大屋古墳
39 狐塚古墳（敷島町）
40 穴屋古墳
41 双屋1号墳
42 田生城古墳
43 双屋2号墳
44 狐塚古墳（双葉町）
45 竜王1号墳
46 竜王2号墳
47 竜王3号墳
48 二ツ屋1号墳
49 二ツ屋2号墳
50 ハ二塚
51 西山1号墳
52 西山2号墳
53 西山3号墳
54 狐塚1号墳
55 狐塚2号墳
56 狐塚3号墳
57 中條屋
58 丸山古墳
59 四ツ谷屋
60 形部屋1号墳
61 形部屋2号墳
62 岡豆屋1号墳
63 岡豆屋2号墳
64 岡豆屋3号墳
65 岡豆屋4号墳
66 岡豆屋5号墳
67 片鍋屋
68 双屋3号墳
69 天神武瓦窯
70 横村山城
71 鉄鉱中山横穴群
72 物部城山
73 山之井遺跡（玉幡町）
74 土屋敷遺跡相原地区
75 舟塚古墳
山梨県
敷島町
凸
凸
凸

製丸玉の未製品1点が、末法遺跡（Ⅱ次）では1号住居跡から凝灰岩質の石材で加工途中とみられる管玉1点と剥片類が出土し、周辺にこの時期の工房跡の存在が予測される。ほかに遺構は未確認だが今回報告する金の尾遺跡第Ⅳ次や第Ⅵ次調査でも比較的多くの遺物が出土しており、さらに該期の集落跡が確認される可能性がある。

中期の遺跡は金の尾遺跡(1)、御岳山遺跡(6)、末法遺跡(8)でそれぞれ住居跡1軒がある。
末法遺跡（Ⅰ次）では1号住居跡から甕、壺、高坏、坏などが出土しセット関係が充実しており、今回の金の尾遺跡（Ⅳ次）1号住居跡や御岳田遺跡（Ⅰ次）2号住居跡でも甕、甑、坏、高坏などが出ている。

そのほか、遺構は確認されていないが、松ノ尾遺跡の第Ⅱ次調査で大型の有段高坏の坏部2個体（口径約25㎝、深さ約5.0㎝）が出土している。

後期の甲府盆地北西部は、6世紀中頃から横穴式石室を有する大型の後期古墳が築造されるようになる。

甲府市湯村にある万寿森古墳や県内で2番目の石室規模を誇る加牟那塚古墳の存在などからこの一帯は県内でも大きな勢力拠点となっていたことが窺える。さらに、6世紀末～7世紀前半には町の南部を群集墳（千塚・山宮古墳群－甲府市、赤坂台古墳群－双葉・竜王など）が取り巻くようになっていく。

敷島町内でも戦後間もない頃に4～5基の古墳が確認されたようであるが、現在では荒川右岸沿いに北から大塚古墳(37)と大庭古墳(38)があるのみでこのほかの古墳はその面影を窺い知ることはできない。

また、松ノ尾遺跡の第Ⅰ・Ⅱ次調査ではおそらく荒川の氾濫によるとみられる人規模な流路跡が確認され、これによって運ばれた土砂に相当するとみられる包含層中から須恵器の蓋、金環、勾玉、ガラス玉、切子玉、白玉、銅鏃、鉄鏃、鉄製刀子など古墳の副葬品とも思われるようなものが出土している。

周辺古墳群の造営に携わったと思われる人々の集落跡は、本町では今のところ松ノ尾遺跡で高い密度で発見されているが、他では金の尾遺跡（Ⅱ次）で住居跡1軒が遺跡の北東端で唯一確認されているのみである。

松ノ尾遺跡では各次調査でこの時期の住居跡が常に発見されてきており、周辺遺跡と比べても遺構・遺物が最も集中していることが窺える。とくに第Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ次調査では住居跡が複雑に重複してみつかり、また第Ⅱ次調査では一辺約7m、第Ⅴ次調査では一辺約8.5mと約8.0×6.0m、第Ⅶ次調査では一辺約7.7mにおよぶ大型の住居跡が発見されていることは特筆される。一方、荒川左岸の甲府市千塚に位置する榎田遺跡でも古墳時代後期の住居跡が12軒発見されているが、規模が一辺約7m四方の大型のものも存在する。

このように、集落内における大型住居跡の存在は遺跡周辺を取り巻く古墳群とともに、今後この地域の様相を考慮していくうえでも注意される要素であるといえる。

盆地北西部でのこうした勢力の繁栄を背景とし、古墳時代の終わり頃には通称敷島台地の南西に天狗沢瓦窯(69)が操業を開始する。これは県内最古の瓦窯で、7世紀後半（白鳳期）に相当する。

盆地北西部ではこの時期の集落跡は、松ノ尾遺跡で近年徐々に住居跡が確認されてきており、また甲府市の榎田遺跡や音羽遺跡などでも古墳時代後期（7世紀後半）～奈良時代に相当する住居跡が調査されている。

しかし、天狗沢瓦窯跡で焼かれ、その瓦が供給された寺院跡は残念ながらまだ発見されていないが、近年の調査のなかで松ノ尾遺跡や村統遺跡(4)において布目の瓦片が出土してきていることは興味深い。

奈良・平安時代　該期の遺構は町内で現在もっとも数が多く、住居跡軒数だけでも100軒以上ある。

このうち現状までの調査成果では、奈良時代から平安時代初め頃にかけては発見される遺構も少ないが、平安時代中頃～末頃にかけては急激に遺構数も増加し該期の集落跡が主体を占めている傾向にある。

松ノ尾遺跡は7回の調査で住居跡37軒と竪穴状遺構10基が確認されており、周辺の金の尾遺跡(1)、御岳山遺跡(6)、三味堂遺跡(5)、末法遺跡(8)でもみられる。一方、町南部の北側では、原腰遺跡(2)、山宮地遺跡(3)があり、村統遺跡(4)では調査面積が狭小であったにもかかわらず36軒が確認された。

この村統遺跡の南側には現在甲府から双葉へと町を横断する通称山の手通りが走っているが、これは甲斐古道9筋の内の1つにあたり旧「穂坂道」に相当する。本来茅ヶ岳の麓を経由して甲府の塩部から長野県佐久の川上までを結ぶ甲斐と信州を繋ぐ古道であった。

各遺跡出土の遺物をみると、膨大な量の土器をはじめとし須恵器、灰釉陶器、陶磁器類、鉄または銅製品なども出土している。中でも松ノ尾遺跡では墨書土器やフイゴの羽口、円面硯（4個体分の破片）、そして銅製の帯金具や金銅製小仏像2躯が、また村統遺跡では銅製小仏像の台座が1躯出土していることなどが特筆される。銅製小仏像はその出土状態や共伴遺物、文様・鋳造技術などからおおよそ11～12世紀の所産と捉えられ、しかも現在県内の発掘調査で出土した4例のうちの3例が本町で発見されたものとなっている。

また、平安時代末頃になると住居跡から貿易陶磁の白磁を出土するようになってくる。

中世　該期の明確な遺構が確認されているのは、松ノ尾遺跡(7)と山宮地遺跡(3)の2遺跡である。

松ノ尾遺跡は、第Ⅶ次調査において一辺約5.2m、最深部約40cmを測り、竪穴内に人為的に石が敷き並べられた竪穴状石組遺構が1基発見され、周辺からは土師質土器や青磁片などが出土しおそらくは平安末～中世初頭の遺構とみられる。この石組遺構の周辺にはピット群が展開し、この内近接したピットから仏像の頭部にみられる螺髪1点が出土しており、今後これらの遺構・遺物から遺跡の性格を十分に検討していく必要性がある。

山宮地遺跡では、近年14～16世紀代とみられる遺構や遺物が調査成果として上がっている。

第Ⅰ次調査ではカワラケや古銭などを出土した竪穴状遺構1基や土坑などがあり、さらに第Ⅱ次調査において竪穴状遺構4基、土坑14基が発見されている。とくに後者の2号竪穴状遺構からは全国でも初例とみられる数点の銅製仏具が詰め込まれた銅製容器が出土した。山宮地遺跡の東隣には前述の穂坂道と南北に直行して南北朝時代に「御嶽道」が発達するが、この古道は修験道の霊場であった金峰山信仰の登山口であったようである。この「御嶽道」と遺跡との位置関係、そして銅製品の内容から「御岳信仰」とのかかわりが推測される。

さらに、第Ⅲ次調査でカワラケと古銭が埋納された計32基にものぼる土壙墓群も検出され、本遺跡は極めて部分的な調査であるにもかかわらず中世遺構が広範囲に埋蔵されていることが最近明らかとなってきた。

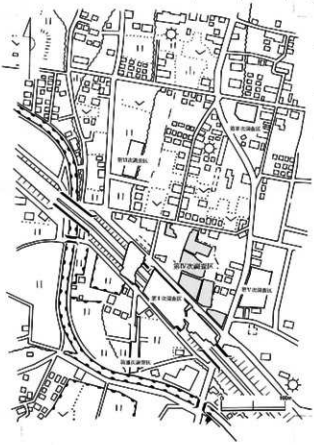
本遺跡の東隣には御嶽道を挟んで調査の手がこれまで一切入ったことのない大庭遺跡があり「甲斐国志」古蹟部では字大庭に武田家の家臣であった「土屋惣蔵昌恒」屋敷跡(24)が存在したという記述がみられ、山宮地、大庭遺跡周辺のこの一帯は本町における該期の様相を考えていく上でも今後重要な地域であるといえよう。

このように、近年の発掘調査ではこれまで判然としなかった町内の中世の様相も徐々に明らかになりつつある。

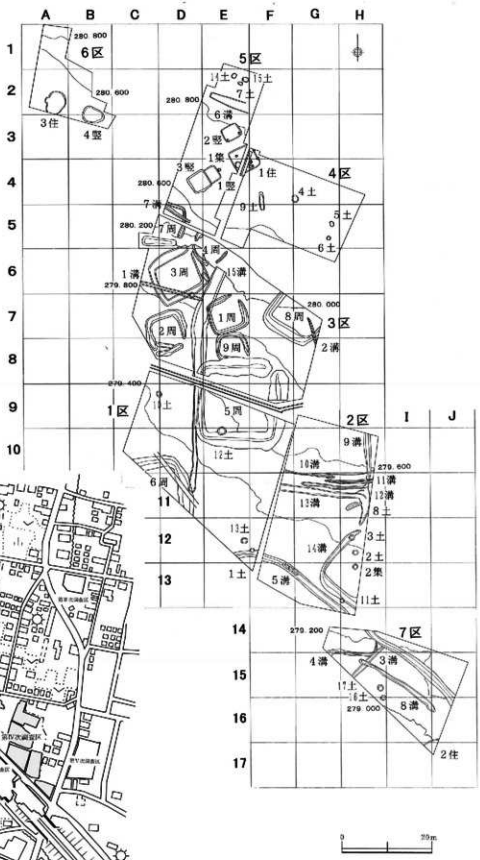
しかもこのような状況と連動するように、明確な遺構は判然としないがこれまで調査を行ってきた各遺跡では量的には微少であるがカワラケや常滑、瀬戸・美濃などの陶器類、そして白磁、青磁などの貿易陶磁などの出土が目立ってきており、今後盆地北西部地域での様相を把握していくうえでも注意される。

約10年前までは敷島町が所在する甲府盆地の北西部地域は調査の手がほとんど及ぶことがなかったことから、歴史の上では空白地帯ともなっていた。しかし、以上にみてきたように町ではいまだに大規模な開発による調査が数少ない状況であるにもかかわらず、内容の濃い成果が近年徐々に蓄積され始めてきている。

今回、ここで報告する金の尾第Ⅳ次次調査では、第Ⅰ次調査の北部隣接地であることから弥生時代を中心とした調査成果の追加などのほか新たな発見もあった。以下、各時代ごとに報告していく。



第２図　調査区位置図



第３図　遺構配置図

第２章　遺構と遺物

金の尾遺跡は、1978年に中央高速自動車道建設に伴い調査がはじめておこなわれた。

第Ⅰ次調査では、縄文時代前～中期の住居跡８軒と弥生時代後期の住居跡32軒、周溝墓17基、土坑や溝など多くの遺構や遺物も発見された。とくに、弥生時代の集落跡と墓域の構成や中部高地系と東海系土器の出土にみられる地域間交流を考えていく上では、貴重な調査成果を上げ県内外におけるこの頃の代表的な遺跡として認識されるようになっていった。

これまで、第Ⅵ次調査までおこなわれてきているが、第Ⅴ次調査で県内初例となる弥生時代末の壺棺が、第Ⅵ次調査ではⅤ字状の環濠跡が発見され、遺跡の全容が徐々に明らかとなりつつある。

今回報告する第Ⅳ次調査は第Ⅰ次調査の北側に隣接し、しかも大規模な調査となったため、各時代の内容にさらに新たな成果を追加することとなった。以下、各時代の遺構・遺物についてみていきたい。

１．縄文時代

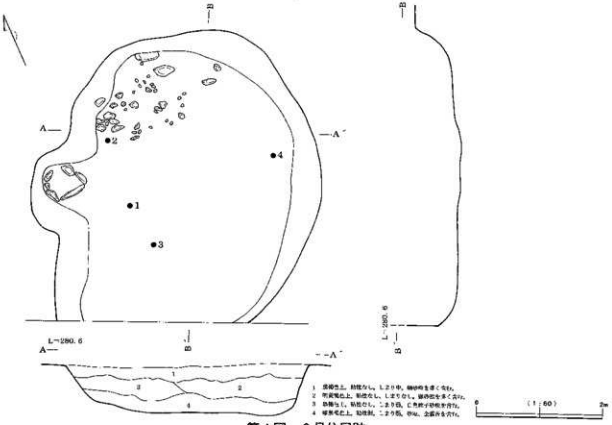
中期中葉、また終わり頃に相当する遺構がある。内訳として、住居跡１軒、竪穴状遺構１基、集石遺構２基、土坑２基が発見され、各遺構とも比較的良好な遺物が出土している。

Ａ．住居跡

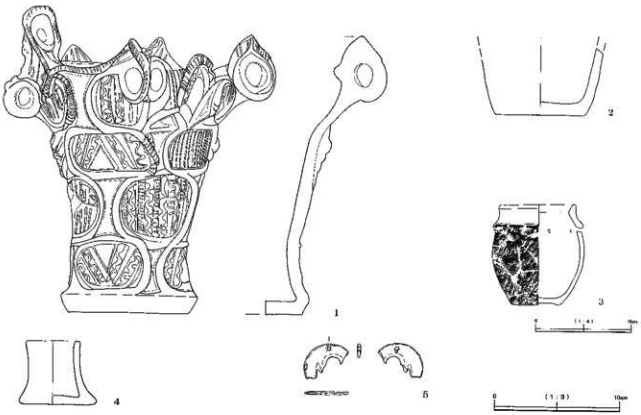
ａ．３号住居跡（第４・５図、図版２－１・２、３－１～４）

調査区の北西６区に位置し、南東部に４号竪穴状遺構が近接している。

住居跡の規模は、確認可能な部分で長軸約4.7m、短軸約4.1mで深さ約60～85cmの掘り込みをもち、南北に長い楕円形を呈している。南西部は調査区外となり明らかでない。床面は、全体的に緩やかな凹凸がある。



第４図　３号住居跡



第5図　3号住居跡出土遺物

また、西側には「コ」字状に張り出した部分があり、6つの大型の石を不正円形に、ないしは方形に意識して組み合わされていた。中からは、とくに焼土や遺物などの出土はみられない。

住居跡の北西部には大小の石が床面上に散在し、その南側で西壁脇から深鉢底部2が出土している。深鉢1・3は住居跡中央からやや西側床面上にあり、1は大型の破片が散在して、3は小型の有孔鍔付土器でほぼ完形の状態で出土している。北東部壁に近いところから無文の小型土器4がある。

また、県内では出土例がきわめて少ない「の」ノ字状の石製品が覆土中から1点出土している。

第1表　3号住居跡出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
1	縄文土器	深鉢	器高 32.3cm 口径 17.6cm 底径 12.6cm	長石、金雲母少	茶褐色	良	口縁の4箇所に把手が付く。胴部には全体的に隆帯による楕円区画が設けられ、内部に沈線による文様が施される。	第5図 図版3
2	縄文土器	深鉢 底部	器高 (7.2cm) 底径 9.4cm	銀、長石多、石英	明茶褐色	やや不良	底部より外傾しながら立ち上がる。	第5図
3	縄文土器	有孔鍔付土器	器高 10.7cm 口径 7.7cm 底径 5.0cm	金雲母、砂粒、挑石少	茶褐色	良	口縁部の直下に直径3～4cmの円孔を11孔施す。	第5図 図版3
4	縄文土器	ミニチュア土器	器高 5.1cm 口径 3.9cm 底径 5.7cm	粗、石英、金雲母、砂粒多	暗茶褐色	良	底部から急激に外反しながら直線に立ち上がる。	第5図 図版3

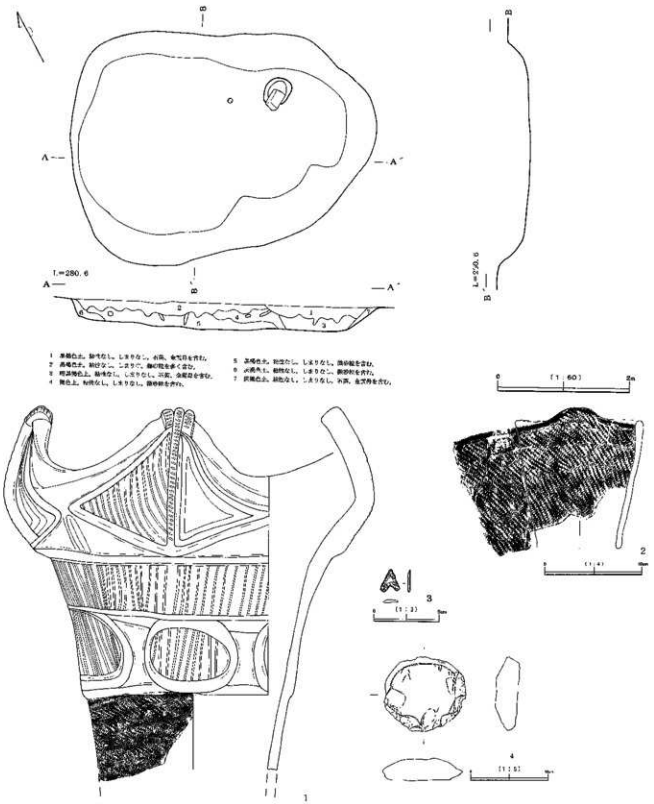
No	器種	計測値（cm）			石質	備考	挿図	図版
		最大長	最大幅	最大厚				
5	「の」の字状	4.0	1.8	0.2	滑石		5	3

B．竪穴状遺構

a．4号竪穴状遺構（第6図、図版2－3・4、3－5～7）

調査区の北西6区に位置し、北西に3号住居跡が近接している。

規模は、長軸約4.7m、短軸約3.5mで不正な楕円形を呈し、深さ約30～40cmで壁は緩やかに立ち上がる。大小の深鉢1・2が破損していたが床面上にまとまりをもって出土している。



第6図　4号竪穴状遺構と出土遺物

第２表　４号竪穴状遺構出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
1	縄文土器	深鉢	口径　(28.3cm)	粗、砂粒多、小石、金雲母、長石少	淡茶色	良	口縁は４単位の波状を呈する。胴上半部は菱形、横線、格円の隆帯区画内に沈線による文様、下半部は縄文RLを地文とする。	第６図 図版３
2	縄文土器	深鉢	口径　13.0cm	細、長石少	灰茶色	良	縄文RL.	第６図 図版３

No	器種	計測値（cm） 最大長	最大幅	最大厚	石質	備考	挿図	図版
3	石　錐	1.7	1.5	0.2	黒曜石		6	3
4	剥　器	9.7	10.5	3.0	砂　岩		6	3

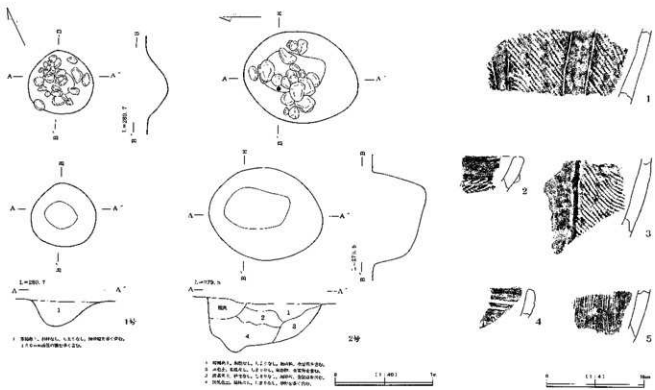
C．集石遺構

a．１号集石遺構（第７図、図版２－５）

調査区北部第５区のやや中央に位置し、１号竪穴状遺構と隣接する。土坑の大きさは直径約0.7ｍの不正円形を呈し、断面形が擂鉢状で深さ約20～25cmを測る。拳大の石が詰め込まれていた。

b．２号集石遺構（第７図、図版２－６）

調査区南部第２区の南京部に位置し、２・３号土坑と14号溝状遺構が近接する。土坑は長軸約1.2ｍ、短軸約1.0ｍの楕円形を呈し、断面形は台形状で深さ約40～55cmを測る。土坑内は拳大の石が多く詰め込まれていた。



第７図　１・２号集石遺構と２号集石遺構出土遺物

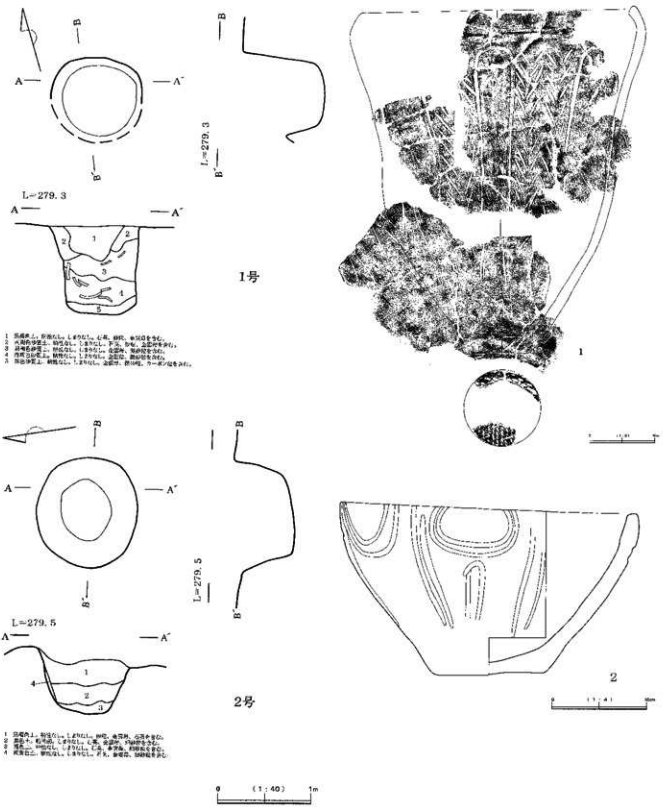
第３表　２号集石遺構出土遺物

No	器種	器形	文様・調整	色調	焼成	胎土	挿図
1	縄文土器	深鉢	地文RL縄文。縦位２本の沈線内を磨消し。	淡茶色	良好	緻密。長石、石英、金雲母。	第７図
2	縄文土器	深鉢	横位断面三角の隆帯。縄文LR.	黒茶色	良好	緻密。長石、石英、金雲母。	第７図
3	縄文土器	深鉢	縦位微隆起線。縄文LR.	青灰色	良好	緻密。長石、石英、金雲母。	第７図
4	縄文土器	深鉢	横位沈線。ハの字沈線。	淡茶色	良	細。長石、石英、金雲母、赤色粒子。	第７図
5	縄文土器	深鉢	櫛描条線。	明茶褐色	良好	緻密。長石、石英、金雲母、赤色粒子。	第７図

D．土坑

a．1号土坑（第8図、図版2－8・9、3－8・9）　直径約100cmの円形を呈し深さ約90cmを測り、中期末の大壁土器1の破片が1個体分まとまって出土した。

b．2号土坑（第8図、図版2－7、3－10）　直径約120cmの円形を呈し深さ約60cmを測る。鉢2がほぼ完全な形で出土している。



第8図　1・2号土坑と出土遺物

第4表　1号土坑出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
1	縄文土器	深鉢	器高 (54.0cm) 口径 (42.2cm) 底径 (12.4cm)	全体に長石を多く含む。少量の金雲母を含む。	明茶褐色	良	底部には網代の圧痕。「八」の字沈線を縦位に充填。	第8図 図版3

第5表　2号土坑出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
2	縄文土器	浅鉢	器高 13.8cm 口径 22.1cm 底径 9.2cm	キメ粗い。全体に長石を多く含む。金雲母と小石を多く含む。	淡茶色	良	口縁部に逆位の弧状の沈線が2本一対に描かれ、下部には逆U字状に沈線が施される。さらにそれぞれの間には2本一対の沈線が縦位に配されている。	第8図 図版3

2．弥生時代

今回、遺構は住居跡1軒、周溝墓6基、土坑1基、溝状遺構1条が発見された。

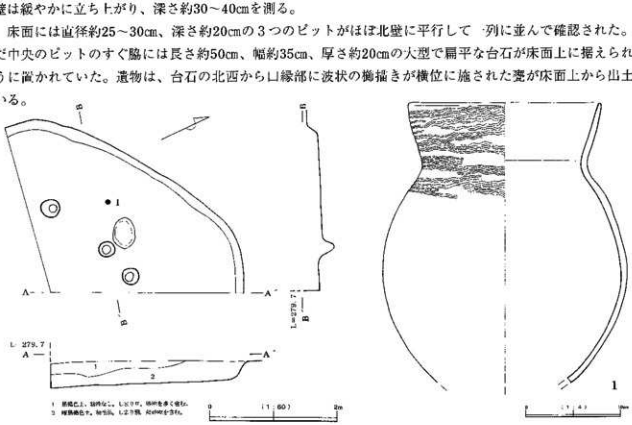
A．住居跡

a．2号住居跡（第9図、図版4－1・2）

調査区南東部第7区の南隅部に位置しその一部が発見されたが、ほとんどが調査区外となっている。

確認可能な規模は東西約4.5m、南北約2.6mである。おそらく、発見された状況から北壁はほぼ完周され、東西の両コーナーが認められることから一辺約5mの隅丸方形状のプランを呈する住居跡であったと思われる。壁は緩やかに立ち上がり、深さ約30～40cmを測る。

床面には直径約25～30cm、深さ約20cmの3つのピットがほぼ北壁に平行して一列に並んで確認された。並んだ中央のピットのすぐ脇には長さ約50cm、幅約35cm、厚さ約20cmの大型で扁平な台石が床面上に据えられるように置かれていた。遺物は、台石の北西から口縁部に波状の櫛描きが横位に施された甕が床面上から出土している。



第9図　2号住居跡と出土遺物

第6表　2号住居跡出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
1	弥生土器	甕	口径 (20.0cm)	長石・石英を多く含む。	淡茶色	良	外面口辺部から肩部にかけて櫛描波状文。	第9図 図版4－2

B．周溝墓（第３図、図版４－３）

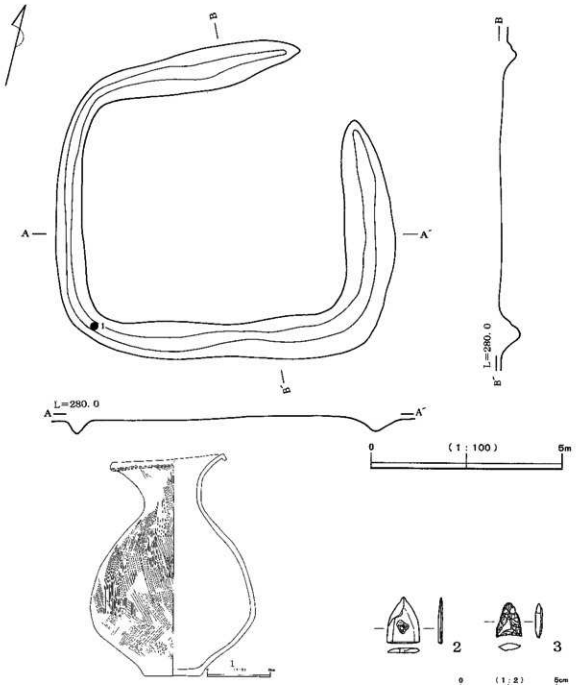
a．１号周溝墓（第10図、図版４－４・５、７－１・10・11）

調査区第３区の中央に位置し、15号溝状遺構、９号周溝墓と重複関係にある。本遺構は西側にある15号溝状遺構に切られ、南側の９号周溝墓を切っている。

規模は、東西約8.9m、南北約8.2mの方形を呈し、台状部は東西約6.9m、南北約6.2mを測る。台状部には主体部は無く、盛土の痕跡も確認できなかった。

周溝は、南東は北西側に比べやや幅広で、北東部の土橋部付近がとくに幅広くなっている。溝の大きさは、幅約0.5～1.3m、深さ約20～60cmである。土橋部は北東部に位置し、幅約2.3mを測る。

遺物は、周溝墓の南西隅部からほぼ完形の壺１が出土しており、溝の覆土中から磨製石鏃２や黒曜石製の石鏃３が出ている。



第10図　１号周溝墓と出土遺物

b．4号周溝墓（第11図、図版4－6～8、7－2）

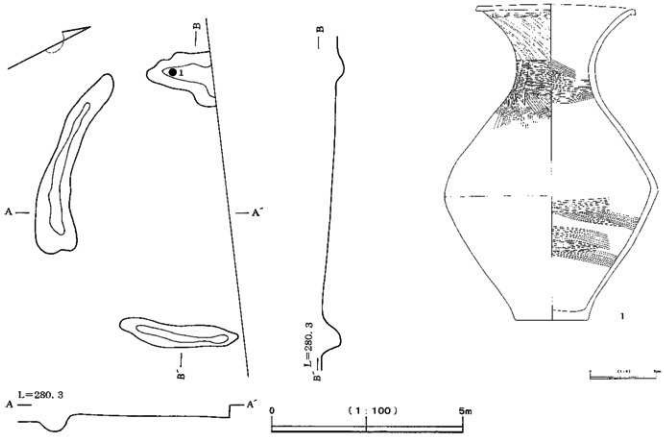
調査区第3区の北側に位置し、南の3号周溝墓に切られている。西側には7号周溝墓が近接している。

本遺構は、南半部のみの確認となったため全体像を窺い知ることはできないが、本遺構は少なくとも計3条の溝から構成されており、各々の周溝が内側へと向かって湾曲していることから、おそらく円形周溝墓の一種であろう。規模は東西約8.0m、南北は確認可能な範囲で約5.0mある。

調査区北から一部確認できる周溝は幅約1.0～1.5m、深さ約0.2m、南側周溝は幅約0.6～1.0m、深さ約0.45m、東側周溝は幅約0.6m、深さ約0.5mをそれぞれ測る。

台状部は、本来6.0mほどあったとみられる。主体部は確認されなかった。

なお、西側周溝内の南側から大型の壺1が出土している。



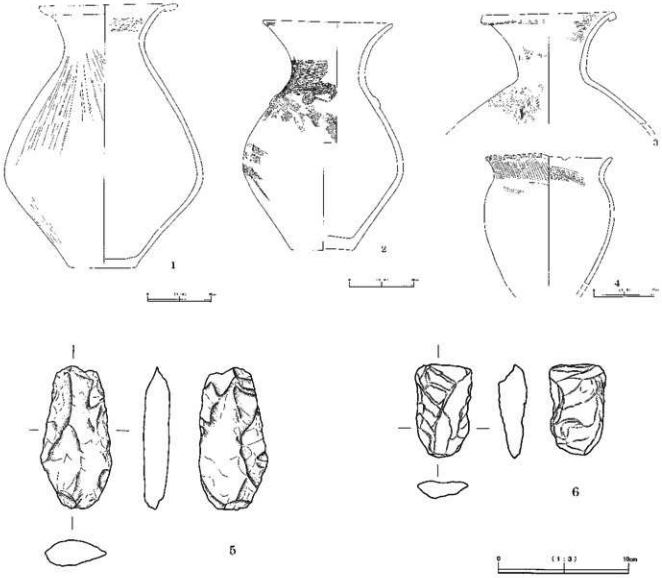
第11図　4号周溝墓と出土遺物

c．5号周溝墓（第12・13図、図版5－1～4、7－3～6・12・13）

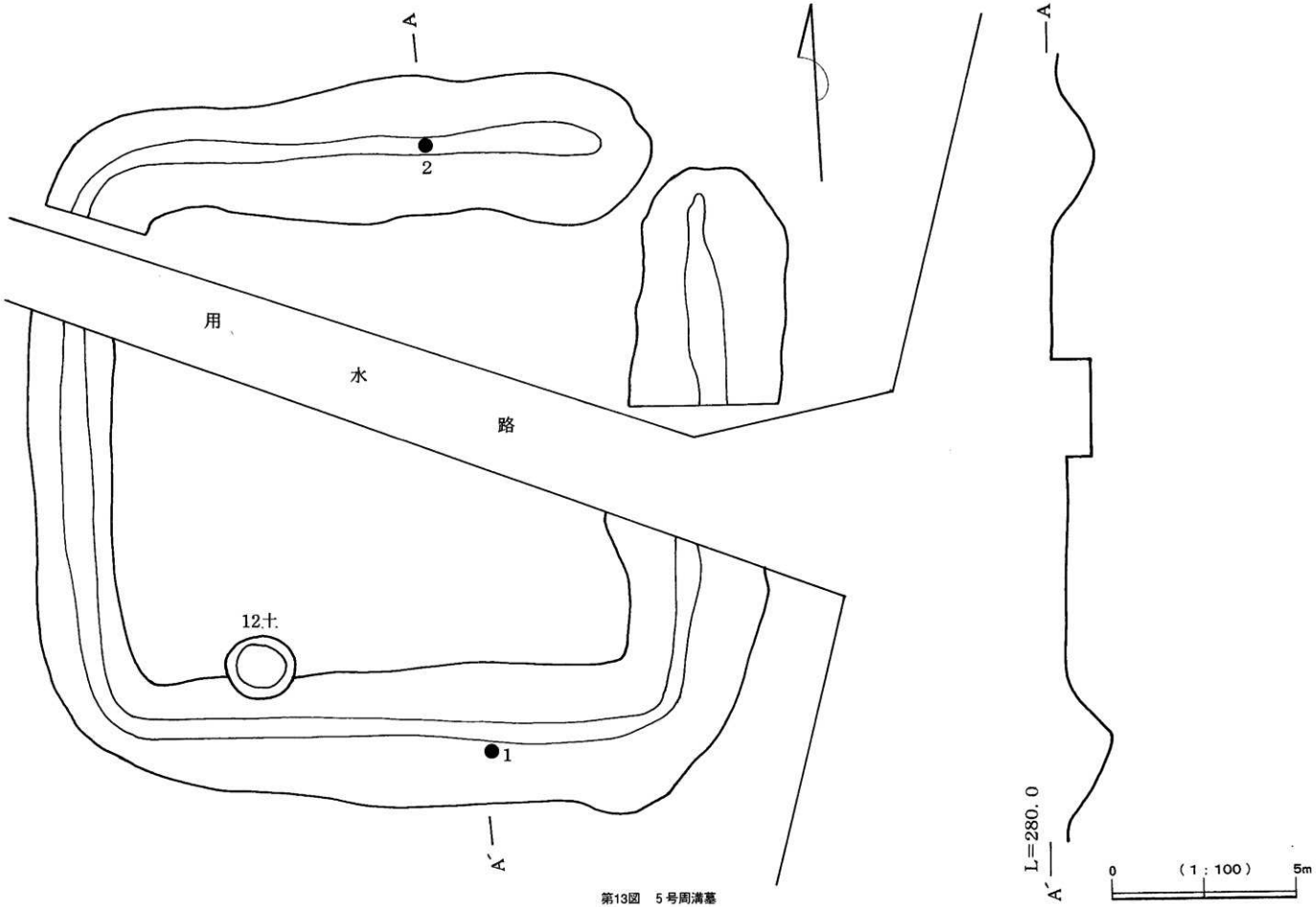
調査区第1・3区にまたがる中央に位置し、これまでの木遺跡の調査で確認された中でも最大級のものである。北側の9号周溝墓と西側の15号溝状遺構と重複し、両遺構ともこの5号周溝墓によって切られ、南側にある12号土坑は本遺構を切っている。また、東西は最近の用水路で撹乱されている。

規模は、東西約20.5m、南北約20mのほぼ正方形を呈し、台状部は東西約14m、南北約12.5mを測る。周溝は幅約2.3～4.0m、深さ約1.0～1.25mを測り大型である。土橋部は北東部に設けられ、幅約0.6mとやや狭い。主体部等は確認されなかった。

遺物は壺1～3、甕4、打製石斧5・6などがあるが、このうち壺2は北側周溝の中央よりやや東側から出土している。



第12図　5号周溝墓出土遺物



第13図　5号周溝墓

d．6号周溝墓（第14図、図版5－5、7－7・14・15）

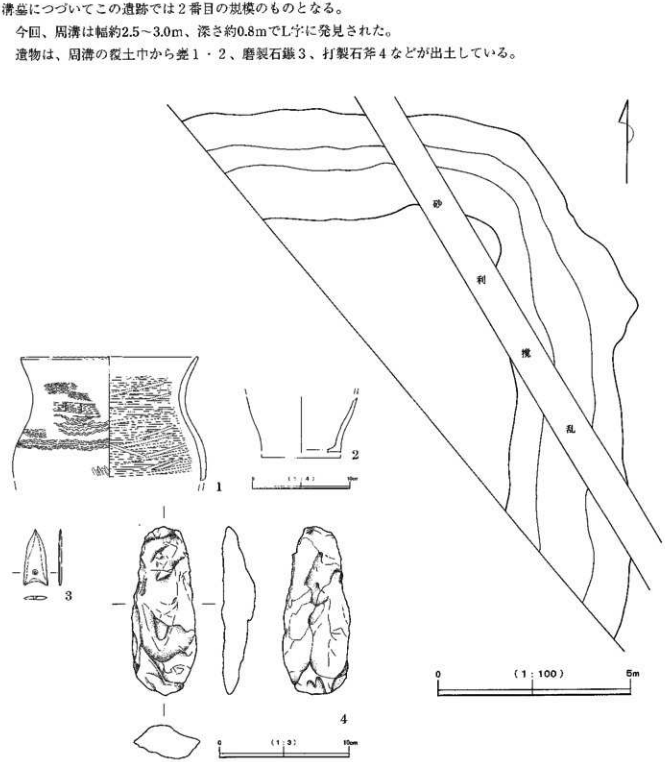
調査区第1区の南西部に位置し、北から南側へと向かう15号溝状遺構とわずかに重複している。

本遺構の南西側の大半は調査区外となっており、一部を確認するにとどまった。また、現代の掘削による溝が北西から南東へと向かって、本遺構を撹乱している。

確認可能な規模は、東西約11m、南北約14mでその形状からおそらく方形周溝墓の北東コーナーであると考えられ、ちょうど本遺跡の第Ⅰ次調査において発見された6号周溝墓とその位置関係や主軸の方向などから同一のものとみられる。もしそうであれば、本遺構は約18～19mを測る大型の方形周溝墓の可能性があり、5号周溝墓につづいてこの遺跡では2番目の規模のものとなる。

今回、周溝は幅約2.5～3.0m、深さ約0.8mでU字に発見された。

遺物は、周溝の覆土中から甕1・2、磨製石鏃3、打製石斧4などが出土している。



第14図　6号周溝墓と出土遺物

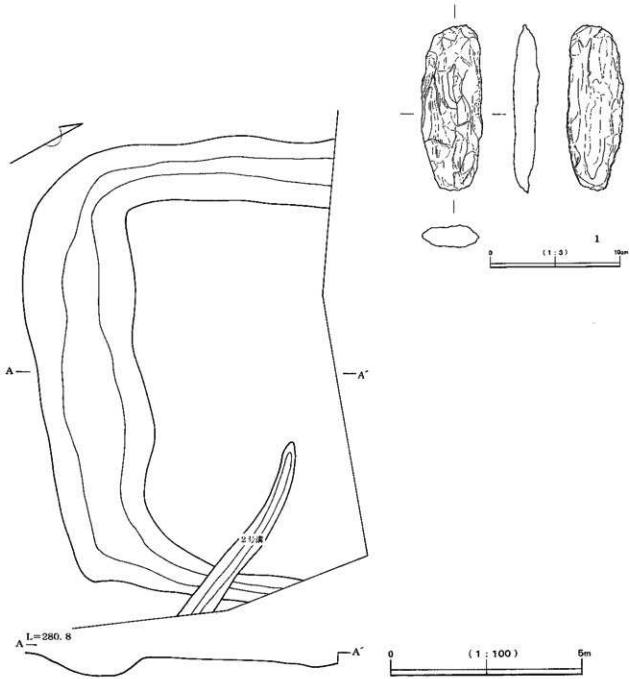
e．8号周溝墓（第15図、図版6－1、7－16）

調査区第3区の北東部に位置し、2号溝状遺構によって東側の一部を切られている。南西部には1・5・9号周溝墓が近接している。

北部の大半は調査区外となっており、確認可能な範囲は東西約12.3m、南北南北約8.0mである。形状からみておそらく東西、南北約12mを測る方形周溝墓と考えられる。台状部は東西約9.8m、南北約5.0mである。土橋部は今回の調査では確認されなかった。

周溝は幅約0.7～3.0mで深さ約0.5～0.6mを測り、南側部分がとくに幅広となっている。

周溝の覆土中から打製石斧1などが出土している。



第15図　8号周溝墓と出土遺物

f．9号周溝墓（第16・17図、図版6－2～4、7－8）

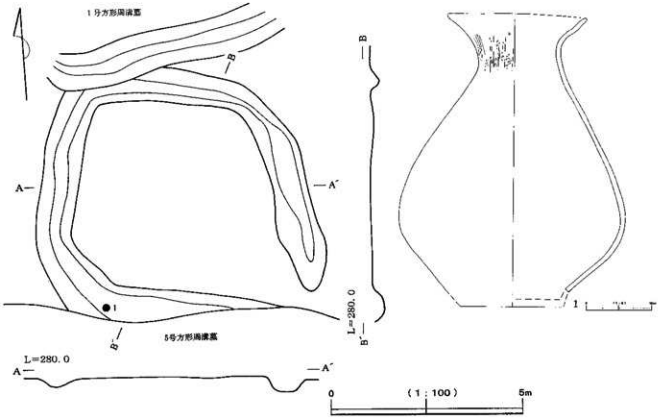
調査区第3区の中央よりやや南側に位置し、北を1号周溝墓、南側を5号周溝墓によって切られている。

規模は東西約7.6m、撹乱を受けていないところで南北6.8mを測り不整形な方形を呈すると考えられる。

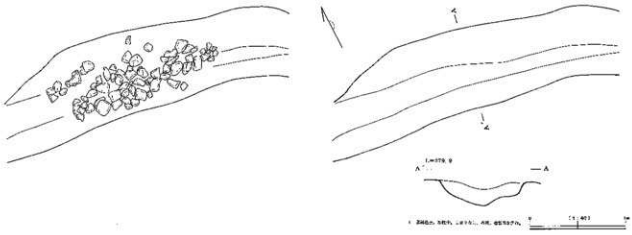
台状部は東西約5.0m、南北約5.2mのほぼ正方形にちかい形状を呈する。周溝は幅約1.0m、深さ約20～35cmを測る。5号周溝墓により本遺構の南側は切られてしまっており、土橋部はかろうじて残存していたが、南東部に1箇所設けられ幅約0.8mある。

遺物は、大型の壺1が東側の周溝内から出土している。

また、北側中央の周溝内には拳大の石がある程度のまとまりをもって出土していた。これに伴って出土する遺物等はとくにない。



第16図　9号周溝墓と出土遺物



第17図　9号周溝墓内発見の集石遺構

第7表　1号周溝墓出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
1	弥生土器	壺	器高 35.8cm 口径 17.7cm 底径 8.9cm	長石を多く含む。金雲母を多く含む。	淡茶色	良	口縁は有段口縁で口唇下部に等間隔の刻み目。体部には縦を基調としたハケ調整が施される。	第10図 図版7

No	器種	計測値（cm） 最大長	最大幅	最大厚	石質	備考	挿図	図版
2	有孔磨製石鏃	2.4	1.7	0.2	粘板岩		10	7
3	石鏃	(1.8)	1.4	0.3	黒曜石		10	7

第8表　4号周溝墓出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
1	弥生土器	壺	器高 49.5cm 口径 24.2cm 底径 11.3cm	長石・砂粒を多く含む。	橙褐色	良	口縁部上半に斜めのハケ目。これより頸部にかけて櫛描の重帯文、さらに肩部には簾目文が施される。	第11図 図版7

第9表　5号周溝墓出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
1	弥生土器	壺	器高 42.4cm 口径 (21.7cm) 底径 10.8cm	キメ細い。長石・石英・金雲母を少量含む。	黒茶褐色	良	口縁部内面横方向の櫛描き。外面体部に縦方向の磨き。折り返し口縁。	第12図 図版7
2	弥生土器	壺	器高 36.3cm 口径 20.3cm 底径 9.7cm	金雲母・小石を少量含む。	茶褐色	良	頸部には櫛描T字文、肩部には円形の貼付文が6箇所にみられ、胴部にかけて斜め方向のハケ調整。	第12図 図版7
3	弥生土器	壺	器高 (18.8cm) 口径 21.8cm	ややキメ粗い。砂粒・長石・石英・小石が少量混入。	淡茶色	良	口唇部に刻み。口縁部外面縦方向、内面横方向のハケ調整。体部外面縦方向のハケ調整。	第12図 図版7
4	弥生土器	甕	器高 (21.2cm) 口径 21.1cm	キメ粗く、砂粒を少量含む。	黒茶色	良	口唇部に刻み。口縁部外面縦方向の櫛描き文。体部上半にハケ調整。	第12図 図版7

No	器種	計測値（cm） 最大長	最大幅	最大厚	石質	備考	挿図	図版
5	打製石斧	11.1	5.5	2	砂岩		12	7
6	打製石斧	7.2	4.0	2.2	粘板岩		12	7

第10表　6号周溝墓出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
1	弥生土器	甕	口径 (18.2cm)	キメ細く緻密。	淡茶色	良	口唇端部に刻み。口縁から休部上半にかけて櫛描波状文、頸部には櫛描波状文が施される。体部内面、外面下半にヘラ磨き。	第14図 図版7
2	弥生土器	壺？	底径 (8.0cm)	長石・金雲母を含む。	橙褐色	良		第14図

No	器種	計測値（cm） 最大長	最大幅	最大厚	石質	備考	挿図	図版
3	有孔磨製石鏃	4.4	1.8	0.2	粘板岩		14	7
4	打製石斧	13.1	4.95	2.45	粘板岩		14	7

第11表　8号周溝墓出土遺物

No	器種	計測値（cm） 最大長	最大幅	最大厚	石質	備考	挿図	図版
1	打製石斧	12.8	4.3	2.0	片岩		15	7

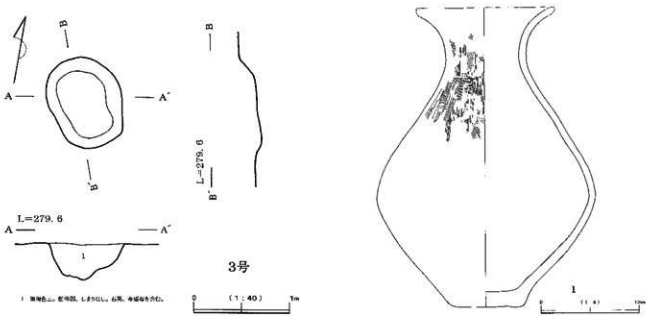
第12表　9号周溝墓出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
1	弥生土器	壺	器高 45.9cm 口径 21.0cm 底径 16.0cm	キメ粗い。長石・小石を全体に含む。	淡茶褐色	良	頸部に縦方向のハケ目。体部外面に縦方向のヘラ磨き。	第16図 図版7

C．３号土坑（第18図、図版６－７、７－９）

調査区第２区の東に位置し、14号溝状遺構を切っている。周りには２号土坑や２号集石遺構がある。大きさは、長軸約1.0m、短軸約0.75mで楕円形を呈し、深さ約0.4mを測り、壁は緩やかに立ち上がる。

土坑内からは、壺１が出土している。

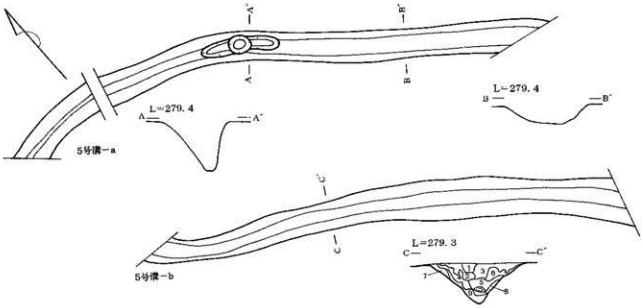


第18図　３号土坑と出土遺物

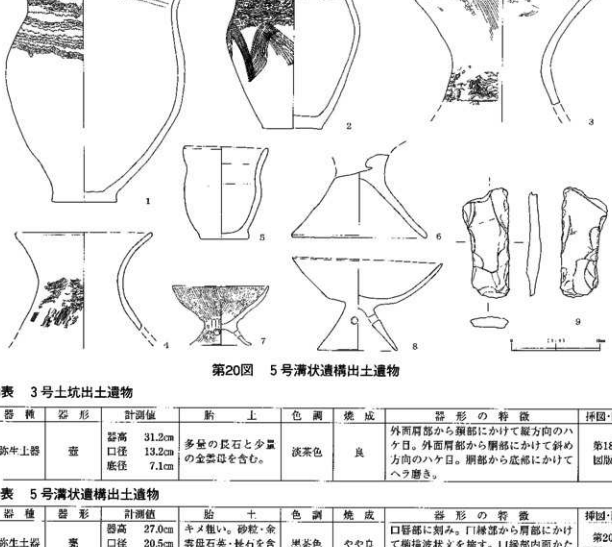
D．５号溝状遺構（第19・20図、図版６－５・６、12－４）

調査区第１・２・７区にわたって延びている。11・13号土坑や３・４・８・14号溝状遺構が隣接している。本遺構は縄文時代の１号土坑を切っている。

確認可能な規模は、長さ約58m、幅約1.0～2.3m、深さ約1.0～2.1mで断面形態は中央のBラインでは緩やかな丸底状であるが東側のCラインでV字状を呈している。また、西側のちょうどAラインの底には長軸約4.2m、幅約70cmのテラスがあり、さらにその中央には直径1.0mのピットが設けられていた。



第19図　５号溝状遺構



第20図　5号溝状遺構出土遺物

第13表　3号土坑出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
1	弥生土器	壺	器高 31.2cm 口径 13.2cm 底径 7.1cm	多量の長石と少量の金雲母を含む。	淡茶色	良	外面肩部から頸部にかけて縦方向のハケ目。外面肩部から胴部にかけて斜め方向のハケ目。胴部から底部にかけてヘラ磨き。	第18図 図版7

第14表　5号溝状遺構出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
1	弥生土器	壺	器高 27.0cm 口径 20.5cm 底径 7.3cm	キメ粗い。砂粒・金雲母石英・長石を含む。	黒茶色	やや良	口唇部に刻み。口縁部から肩部にかけて櫛描波状文を施す。口縁部内面かた体部にかけて横ハケ。	第20図 図版12－4
2	弥生土器	壺	器高 18.4cm 口径 14.5cm 底径 6.7cm	キメ細かい。金雲母・小石を少含む。	明茶褐色	良	外面頸部から肩部にかけて櫛描波状文。体部中央は櫛による鋸歯状文。体部下半と内面はヘラ磨き。	第20図 図版12－4
3	弥生土器	壺	口径 22.6cm	キメ細かく緻密。金雲母を含む。	淡茶色	良	口縁部斜位に崩け調整。頸部には横位の櫛描波状文。口縁部内面横ハケ。朱が施されている。	第20図 図版12－4
4	弥生土器	壺	口径 15.6cm	キメ粗い。砂粒・金雲母石英・長石を含む。	白灰茶色	やや良	頸部の上位に櫛描波状文。その下部に縦方向の間文様がみられる。	第20図 図版12－4
5	弥生土器	壺	器高 10.7cm 口径 9.0cm 底径 5.2cm	キメやや粗い。金雲母を多く含む。	暗茶色	良		第20図 図版12－4
6	弥生土器	高坏	底径 14.9cm	キメ細かく緻密。金雲母を少量含む。	褐色	良好	外内面ともにヘラ磨き。脚部外面に朱を塗す。	第20図 図版12　4
7	弥生土器	高坏	器高 6.8cm 口径 (10.4cm) 底径 6.9cm	キメ細かく緻密。長石を多く含む。	橙赤褐色	良好	坏部内外面ともにヘラ磨き。脚部ヘラ削り後、下部のみヘラ磨き。脚部には直径7mmの円孔が3孔みられる。	第20図 図版12－4
8	弥生土器	高坏	器高 10.6cm 口径 16.8cm 底径 8.9cm	キメ粗い。多くの長石と少量の石英を含む。	明茶褐色	やや良	脚部の3箇所に直径7mmの円孔あり。	第20図 図版12－4

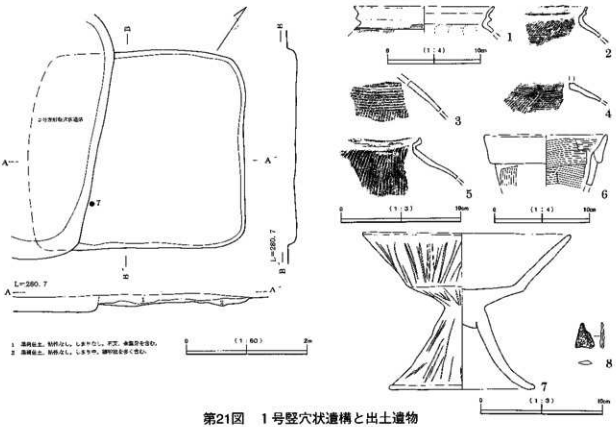
No	器種	計測値（cm）			石質	備考	挿図	図版
		最大長	最大幅	最大厚				
1	打製石斧	12.5	5.2	1.4	砂岩		20	

3．古墳時代

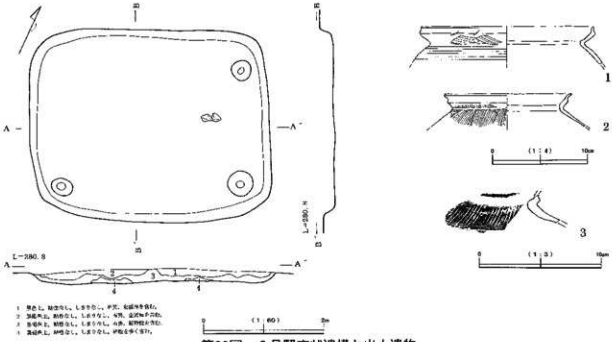
前期の竪穴状遺構３基、方形周溝墓２基、低墳丘墓1基、中期の住居跡１軒、土坑４基が確認された。

A．竪穴状遺構（第21～23図、図版８－１～３、９－５－１～６）

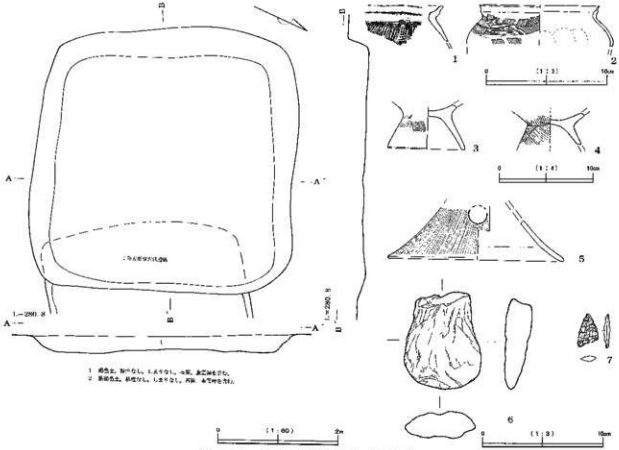
調査区第５区の中央から３基の竪穴状遺構が発見された。２号は１号住居跡の北側に近接し、１号は３号と重複関係にあり切られている。いずれの遺構からもＳ字状口縁の台付甕を中心とした遺物が出土している。



第21図　１号竪穴状遺構と出土遺物



第22図　２号竪穴状遺構と出土遺物



第23図　3号竪穴状遺構と出土遺物

第15表　1号竪穴状遺構出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	図版
1	土師器	台付甕	口径 (15.4cm)	細、金雲母多	暗茶色	良	胴部横・縦方向のハケ目。S字状口縁。	9－5
2	土師器	台付甕		細、金雲母多	暗茶色	良	胴部斜めのハケ目。S字状口縁。	9－5
3	土師器	台付甕		粗、金雲母多	暗茶色	良	縦・横方向のハケ目。S字状口縁。	9－5
4	土師器	台付甕		細、金雲母多	淡茶色	良	胴部横・斜め方向のハケ目。S字状口縁。	9－5
5	土師器	台付甕		細	淡茶色	良	胴部縦方向のハケ目。S字状口縁。	9－5
6	土師器	壺	口径 (13.4cm)	細、金雲母多	明褐色	良	折り返し口縁。内面横方向のハケ目、外面部分的に縦方向のハケ目。	9－5
7	土師器	高坏	器高 13.2cm 口径 17.2cm 底径 11.8cm	細	黄茶褐色	良	坏部横方向のナデ後、縦方向の磨き。脚部縦方向の磨き。	9－5

No	器種	計測値（cm） 最大長	最大幅	最大厚	石質	備考	挿図	図版
8	石鏃	(2.1)	1.6	0.3	黒曜石		21	

第16表　2号竪穴状遺構出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	図版
1	土師器	台付甕	口径 (18.9cm)	長石	茶褐色	良	口辺部内面横方向ハケ目。外面斜め方向、縦方向のハケ目。交口状口縁。	9－5
2	土師器	台付甕	口径 (14.0cm)	細、長石少、金雲母	茶褐色	良	外面縦方向のハケ目。外面底部及び下半部ヘラ整形。S字状口縁。	9－5
3	土師器	台付甕		金雲母	暗茶色	良	外面縦方向のハケ目後、横方向のハケ目。S字状口縁。	9－5

第17表　3号竪穴状遺構出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	図版
1	土師器	台付甕		細、金雲母多	茶褐色	良	外面不規則なハケ目。S字状口縁。	9－5
2	土師器	台付甕	口径 (13.4cm)	細、金雲母多	茶褐色	良	外面不規則なハケ目。S字状口縁。	9－5
3	土師器	台付甕	底径 8.3cm	細、金雲母多	茶褐色	良	外面不規則なハケ目。	9－5
4	土師器	台付甕		細、金雲母多	茶褐色	良	外面不規則なハケ目。	9－5
5	土師器	高坏	底径 (14.6cm)	キメ細かく緻密。	淡茶色	良	縦のヘラ磨き、脚部直径14mmの円孔。	9－5

No	器種	計測値（cm） 最大長	最大幅	最大厚	石質	備考	挿図	図版
6	打製石斧	(7.7)	5.9	1.8	片岩		23	9－5
7	石鏃	2.8	1.6	0.5	黒曜石		23	9－5

第18表　1～3号竪穴状遺構一覧

No	位置	規模（m）			備考	図版
		長軸	短軸	最深		
1号	第5区	3.6	3.35	0.20	S字状口縁台付甕、壺、高坏などが出土。	8－1
2号	第5区	4.0	3.25	0.25	S字状口縁台付甕、受口状口縁甕などが出土。	8－2
3号	第5区	4.45	4.4	0.30	S字状口縁台付甕、高坏、有器などが出土。	8－3

B．周溝墓

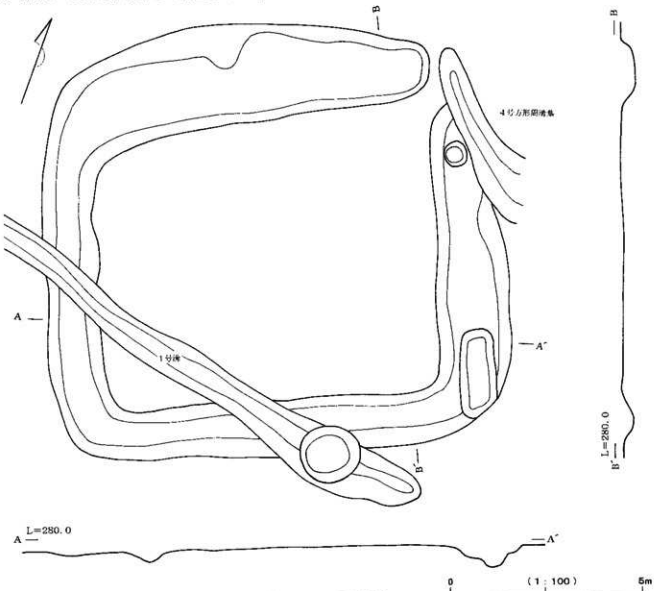
a．3号周溝墓（第24～27図、図版8－4、9－5－7～14）

調査区第3区北西部に位置し、南側の1号溝状遺構および北東部の4号周溝墓と重複している。北西部に7号周溝墓、南東部に2号周溝墓と15号溝状遺構が近接している。

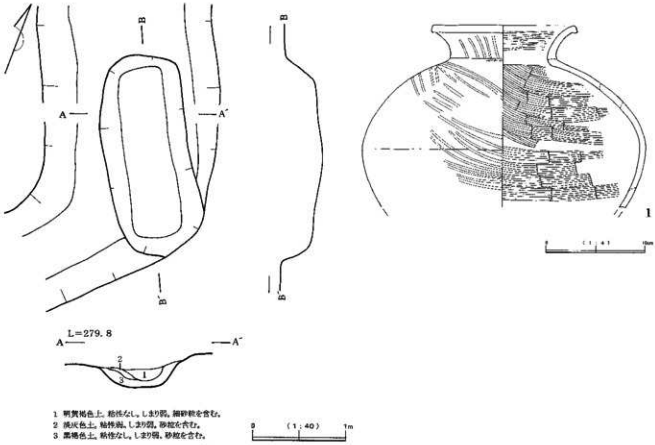
規模は、東西約12.1m、南北約11.5mの方形を呈し、台状部は東西約9.0m、南北約7.4mを測る。土橋部は北東方向に1箇所設けられ、幅約0.7mを測る。方形に巡る周溝は幅約1.4～2.6m、深さ約0.1～0.35mを測る。主体部および盛り土の痕跡などは確認されなかった。

本周溝墓の南東部周溝内には、長軸約2.2m、短軸約0.9m、深さ約35～40cmの南北に主軸をもつ長方形の周溝内土坑が発見された。中からは、大型の破片で胴部に最大径をもつとみられる壺1が出土している。

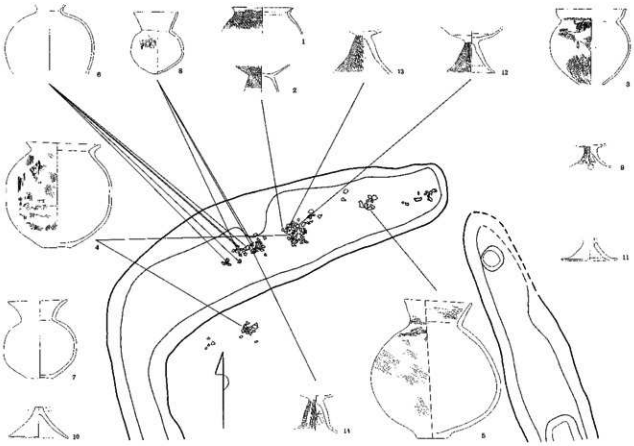
また、本遺構の確認段階で北側周溝のほぼ中央にあたる確認面から覆土上層部にかけて、甕1～4、壺5～8、高坏9～14などが集中して出土している。



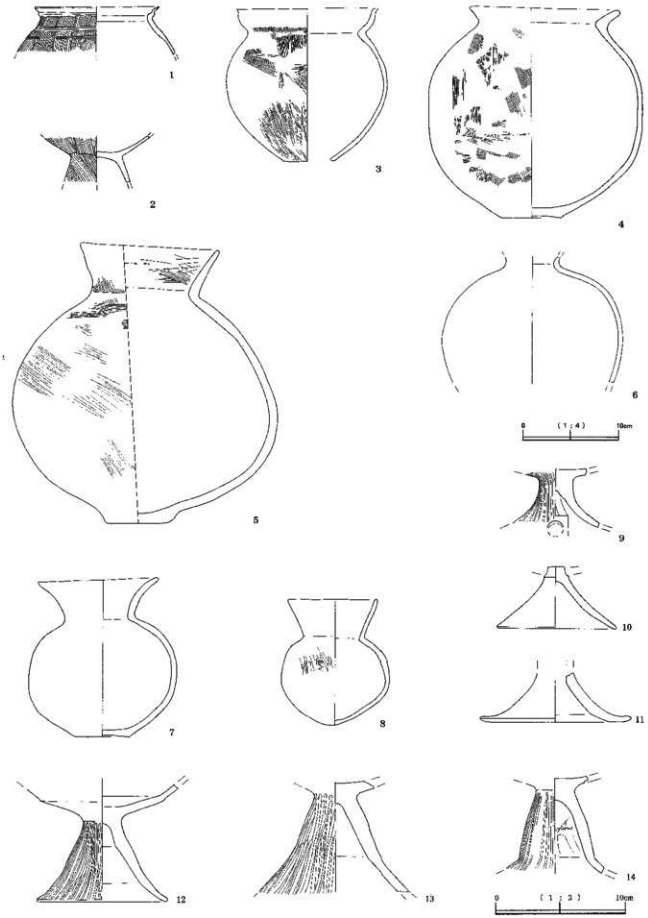
第24図　3号周溝墓



第25図　3号周溝墓　周溝内土坑と出土遺物



第26図　3号周溝墓　北側周溝内出土遺物分布図



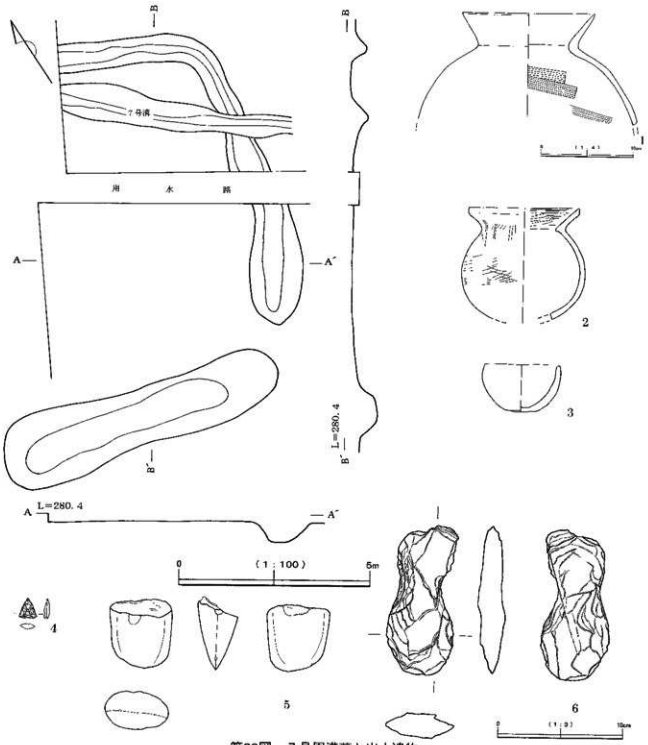
第27図　3号周溝墓　北側周溝内出土遺物

b．7号周溝墓（第28図、図版8－5、10－1～3）

調査区第3・5区にまたがる西側に位置する。北側を7号溝状遺構によって切られ、遺構中央には東西に最近の用水路により撹乱を受けている。北側に1・3号竪穴状遺構が、南東部には3・4号方形周溝墓が近接している。

西側は調査区外となっており、今回確認できたのはおおよそ全体の3分の2ほどである。確認可能な部分での規模は、南北約11mで本遺構は方形を呈すると考えられることから東西も同じような大きさを有するとみられる。台状部は南北約8.5mを測る。

本遺構は2号周溝墓と同様に北側周溝が南側へ「コ」字状に開口し、この開口した部分には東西に長い周溝



第28図　7号周溝墓と出土遺物

が観じている。「コ」字状の北側周溝は幅約0.7～1.4m、深さ約0.4～0.5mで、南側のものは長さ約7.5m、幅約1.6～2.0m、深さ約0.5mをそれぞれ測る。

台状部には主体部とみられるものは無く、また盛土等の痕跡も確認されなかった。

周溝の覆土中からは、壺1・2、碗3、石鏃4、磨製石斧5、打製石斧6などが出土している。

第19表　3号周溝墓　周溝内土坑出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
1	土師器	壺	口径 (14.0cm)	キメ細かく緻密。	明褐色	良	口辺部外面縦方向の磨き、内面横方向の磨きの後、横ナデ仕上げ。体部外面斜め方向の磨き、内面横方向のハケ調整。	第25図 図版9 5

第20表　3号周溝墓　北側周溝出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
1	土師器	甕		やや粗、長石、石英、赤色粒子、金色雲母	明茶褐色	良	外面ハケ目。	第27図 図版9－5
2	土師器	甕		やや粗、石英、金色雲母を含む。	暗茶褐色	良	外面ハケ目。	第24図 図版9－5
3	土師器	甕	器高 16.7cm 口径 15.0cm 底径 5.3cm	キメ粗く、長石・砂粒・小石を多く含む。	淡茶色	良	口縁部は緩やかに外反しながら内湾し、さらに口唇部で外反する。体部外面は縦方向のハケ目、肩部には横方向のハケ調整。体部内面上半には横方向のハケ調整。	第27図 図版9－5
4	土師器	甕	器高 23.0cm 口径 16.1cm 底径 6.4cm	砂粒・小石を含む。	黒褐色	良	体部と底部の内面にハケ目。体部外面は縦・横方向のハケ調整。	第27図 図版9－5
5	土師器	壺	器高 30.9cm 口径 14.4cm 底径 7.0cm	キメやや粗く、長石・石英・砂粒を含み少量の小石が混ざる。	淡茶褐色	良	口縁部がやや外反する単純口縁で、胴部は球状を呈する。体部外面横・斜めのハケ目。口縁部の内側は、横方向のハケ目。	第27図 図版9－5
6	土師器	壺		多量の長石と少量の石英を含む。	灰茶色	良	内面横方向のハケ目。外面は剥離した部分が多い。	第27図
7	土師器	小型壺	器高 17.8cm 口径 12.8cm 底径 5.6cm	砂粒を含む。	淡茶褐色	良	口縁部外面に縦方向の暗文状の磨き。体部外面にハケ調整。	第27図 図版9－5
8	土師器	小型壺	器高 13.5cm 口径 9.2cm 底径 1.2cm	小石を多く含む。	淡茶色	良	外面に一部赤。体部外面に一部ハケ。底部外面に一部ハケ調整あり。	第27図 図版9－5
9	土師器	高坏		キメ細かく緻密。	明橙色	良	内面ヘラ削り。外面縦方向のヘラ磨き。	第27図 図版9－5
10	土師器	高坏	底径 10.8cm	キメ細かく緻密。	明橙色	良	裾部横ナデ仕上げ。	第27図 図版9－5
11	土師器	高坏	底径 14.5cm	緻密、石英、赤色粒子を含む。	橙褐色	良	横ナデ仕上げ。	第27図 図版9－5
12	土師器	高坏	底径 10.2cm	キメ細かく緻密。	淡茶色	良	裾部横ナデ仕上げ。外面縦方向のヘラ磨き。	第27図 図版9－5
13	土師器	高坏		キメ細かく緻密。	淡茶色	良	内面横方向のナデ。外面縦方向のヘラ削り後、縦方向のヘラ磨き。	第27図 図版9 5
14	土師器	高坏		キメ細かく緻密。	淡茶色	良	脚部内面ヘラ削り。外面縦方向のヘラ磨き。	第27図 図版9－5

第21表　7号周溝墓出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
1	土師器	壺	口径 14.0cm	キメ細かい。長石・金雲母を含む。	橙褐色	良	口辺部横ナデ仕上げ。体部内面横方向のハケ調整。	第28図 図版10
2	土師器	小型壺	器高 (9.1cm) 口径 (9.0cm)	微砂粒を含む。金雲母・長石を少量含む。	淡茶褐色	良	口縁部外面縦方向のハケ目、外面体部横方向のハケ目。口縁部内面横方向のハケ目。	第28図 図版10
3	土師器	小型碗？	器高 3.9cm 口径 6.0cm 底径 1.6cm	小石を多く含む。	淡茶色	良	底部より緩やかに内湾しながら立ち上がり、口唇部に向かって直立気味にわずかに内湾する。内外面ナデ調整。	第28図 図版10

No	器種	計測値（cm） 最大長	最大幅	最大厚	石質	備考	挿図	図版
4	石鏃	(1.7)	(1.5)	0.5	黒曜石		28	
5	磨製石斧	(4.8)	(5.2)	(3.0)	緑色凝灰岩		28	
6	打製石斧	(12.1)	3.4	2.0	片岩		28	

C．低墳丘墓

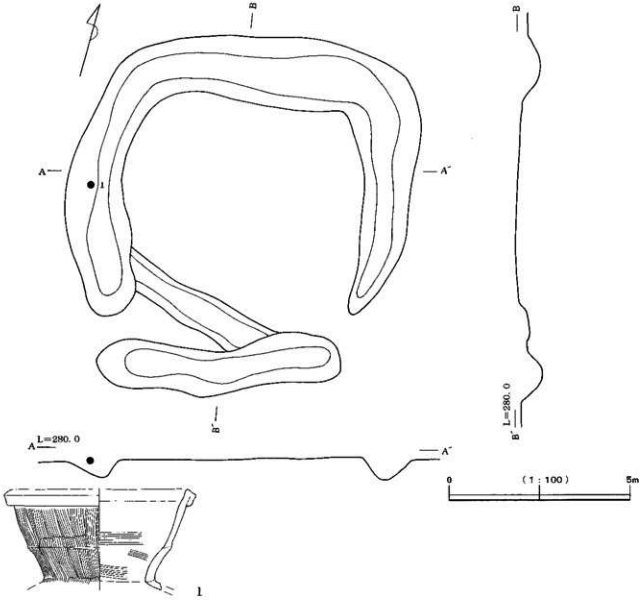
a．2号周溝墓（第29図、図版8－6、10－4）

調査区第3区の南西部に位置し、北側に3号周溝墓と1号溝状遺構、東側に15号溝状遺構が近接している。本遺構は南西周溝部分で浅い溝と重複しこれを切っている。

規模は、東西約9.5m、南北約10mの方形を呈し、台状部は東西約6.7m、南北約7.0mを測る。

遺構は南側に開口部をもつように幅約1.3～2.0m、深さ約0.4mの溝を「コ」字状に巡らせ、南側は長さ約6.8m、幅約1.2～1.4m、深さ約0.35mの溝で区画される形態となっている。主体部および盛り土の痕跡は確認されなかった。

なお、壺の口縁部1が本周溝墓の西側溝内から出土した。1はその形態や胎土、調整等から壺形埴輪とみられることから、ここでは本遺構について前述までの周溝墓とはあえて区別し掲載した。



第29図　2号周溝墓と出土遺物

第22表　2号周溝墓出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
1	土師器	壺	口径 18.2cm	長石、石英、赤色粒子を含む。	明橙色	良	折り返し口縁。口辺部横ナデ仕上げ。体部外面縦方向のハケ調整。体部内面横方向のハケ調整が施される。	第29図 図版10

D．住居跡

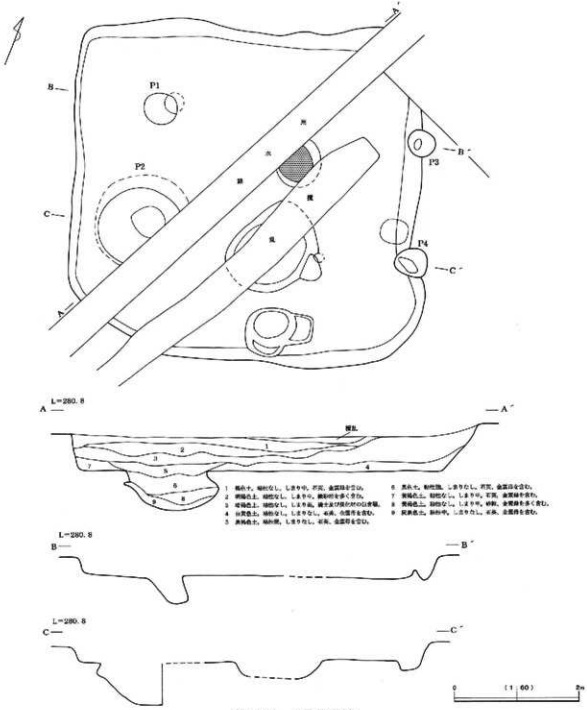
a．1号住居跡（第30～33図、図版8－7・8、10－5～13）

調査区第4・5区の北側に位置し、1～3号竪穴状遺構、9号土坑、1号集石遺構などが隣接する。

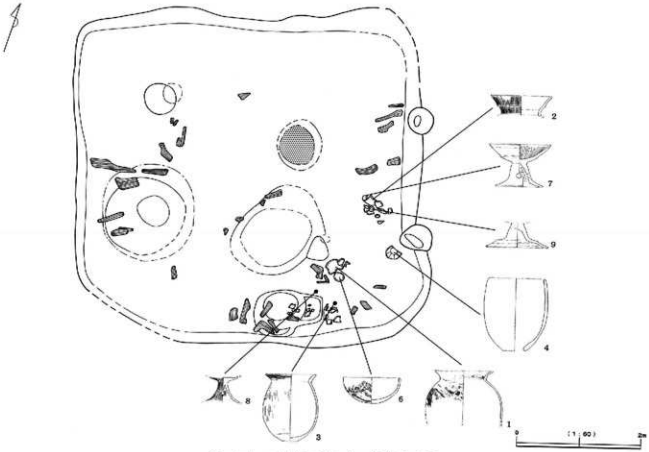
住居跡の北東部から南西部にかけてコーナーのほぼ対角線上となる部分に現代の用水路や溝状の撹乱が入っているが、上層のみの撹乱であったことから遺構の遺存状態は思ったよりも良好であった。

規模は、東西約5.6m、南北約5.4mで方形を呈し、深さ約55cmを測り壁は緩やかに立ち上がる。

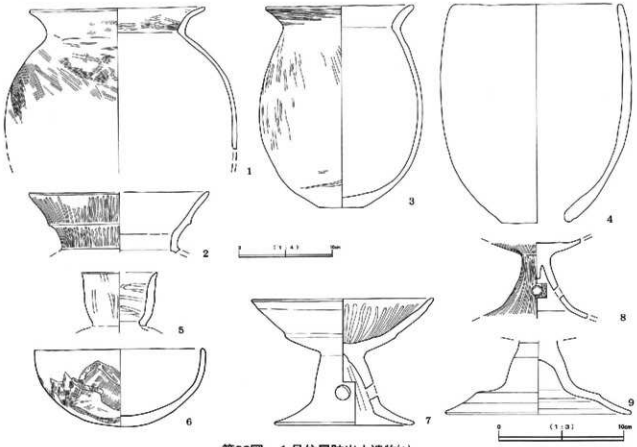
主柱穴は並びとその位置関係からP1～4と考えられ、P3・4は住居跡の壁に沿うようにしてある。P2は土坑状の大きさとなっているがおそらく掘り方が存在したのであろう。柱穴P1・3・4の大きさは直径約40～55cmで深さ約15～45cmを測る。P2は直径約1.3m、深さ約70cmを測り、掘り込みの内部には膨らみをもつ袋状の



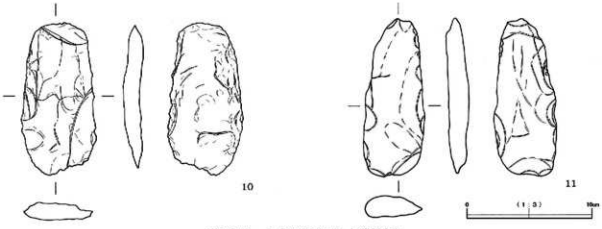
第30図　1号住居跡



第31図　1号住居跡出土の遺物分布図



第32図　1号住居跡出土遺物(1)



第33図　1号住居跡出土遺物(2)

形態をしている。

炉は住居跡中央からやや北東部に設けられ、直径約80cmあり浅い掘り込みをもつ。しかし、溝状の撹乱によって南東部が壊されている。また、南壁中央から東よりに2ヶ所にテラスをもつ掘り込みがある。

遺物は形を留めた比較的良好なものが住居跡南東部コーナー周辺を中心として出土している（第31図）。南東コーナーでも東壁よりには甑4、壺の口縁2、高坏7・9など、南側には甕1・3、坏6、高坏8などがまとまってそれぞれ床面上から出土している。また、覆土中と床面から炭化材も豊富に検出された。

第23表　1号住居跡出土遺物

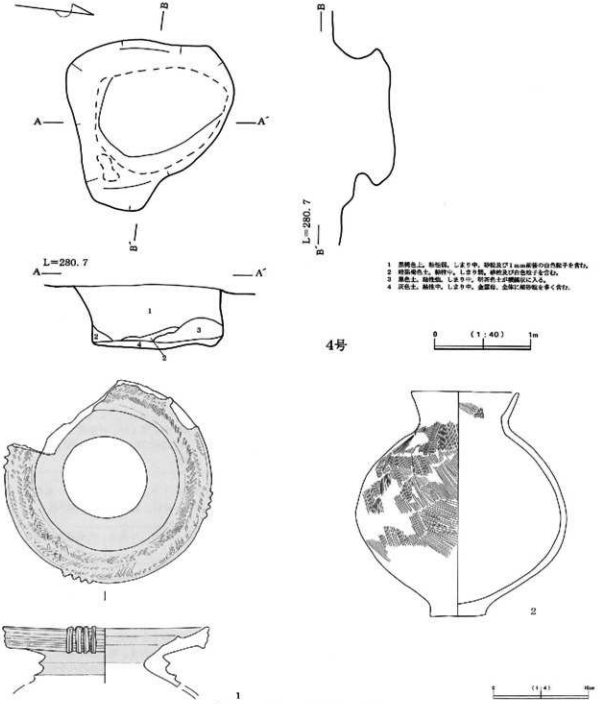
No.	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
1	土師器	甕	口径　19.5cm	砂粒・小石を多く含む。	赤褐色	良	口辺部から体部外面にかけてハケ目。口辺部内面に横方向のハケ目。	第32図 図版10
2	土師器	甕	口径　(19.4cm)	キメ細かく緻密。	淡茶色	良	口辺部横ナデ仕上げ。外面口辺部から頸部にかけて縦方向のヘラ磨き。有段口縁。	第32図 図版10
3	土師器	甕	器高　22.2cm 口径　16.2cm 底径　4.7cm	砂粒・小石を多く含む。	暗茶褐色	良好	口辺部横ナデ仕上げ。外面縦方向のハケ目、内面横方向のハケ目。底部外面ヘラ調整。	第32図 図版10
4	土師器	甑	器高　24.0cm 口径　17.5cm 底径　7.1cm	砂粒・小石を多く含む。	淡黄茶色	良	体部内面下半に縦方向のハケ目。体部外面にハケ目。体部中央に輪積み痕。	第32図 図版10
5	土師器	壺	口径　(6.0cm)	赤色粒子を含む。キメ細かく緻密。	淡茶色	良好	外面縦方向のヘラ磨き、内面横方向のヘラ磨き。	第32図 図版10
6	土師器	坏	器高　6.5cm 口径　13.8cm 底径　1.0cm	砂粒・小石を多く含む。	明茶褐色	良	外面ヘラ削り。内面ナデを施す。	第32図 図版10
7	土師器	高坏	器高　10.4cm 口径　14.4cm 底径　10.9cm	キメ細かく緻密。	淡茶色	良好	口辺部横ナデ仕上げ。脚部に直径1.2cmの円孔が穿たれる。坏部内面縦方向のヘラ磨き。脚部内面縦方向のヘラ削り。	第32図 図版10
8	土師器	高坏		キメ細かく緻密。	橙褐色	良	脚部に直径8mの円孔が4孔穿たれている。	第32図 図版10
9	土師器	高坏	底径　14.7cm	キメ細かく緻密。	暗茶色	良	全体に横ナデ仕上げ。	第32図 図版10

No.	器種	計測値（cm）			石質	備考	挿図	図版
		最大長	最大幅	最大厚				
10	打製石斧	12.5	5.9	1.3	粘板岩		33	10
11	打製石斧	12.8	4.7	1.6	片岩		33	10

E．土坑（第34・35図、図版９－１～４、10－14～18）

該期に属するとみられる土坑は計４基あり、このうち４・７号から良好な遺物が出土している。

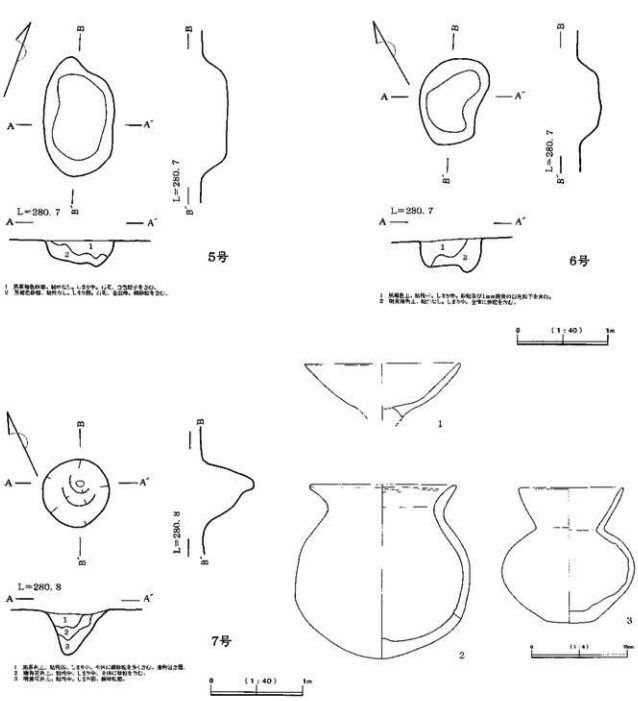
とくに４号土坑は調査区４区の中央付近から発見され、土坑の壁面中央が部分的に膨らみをもつ特異な形態である。坑内からパレス壺の口縁部１やほぼ完形で球胴状の壺２などが出土している。



第34図　４号土坑と出土遺物

第24表　４～７号土坑一覧

No.	器種	計測値（cm）			石質	備考	図版
		推定径	最大幅	最大厚			
４号	第４区	1.8	1.5	0.68	不整形		９－１
５号	第４区	1.35	0.75	0.28	楕円形		９－２
６号	第４区	1.0	0.65	0.37	不整形		９－３
７号	第５区	0.76	0.74	0.55	円形	壺、高坏などが出土。	９－４



第35図　5～7号土坑と7号土坑出土遺物

第25表　4号土坑出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	図版
1	土師器	壺（パレス）	口径 21.4cm	細、長石少、金雲母多	茶褐色	良好	器面に朱。	10
2	土師器	壺	器高 23.9cm 口径 10.9cm 底径 5.7cm	細、砂粒、長石微	暗褐色	良	肩部から体部斜め方向、体部横方向のハケ目。口辺部内面斜め方向のハケ目。	10

第26表　7号土坑出土遺物

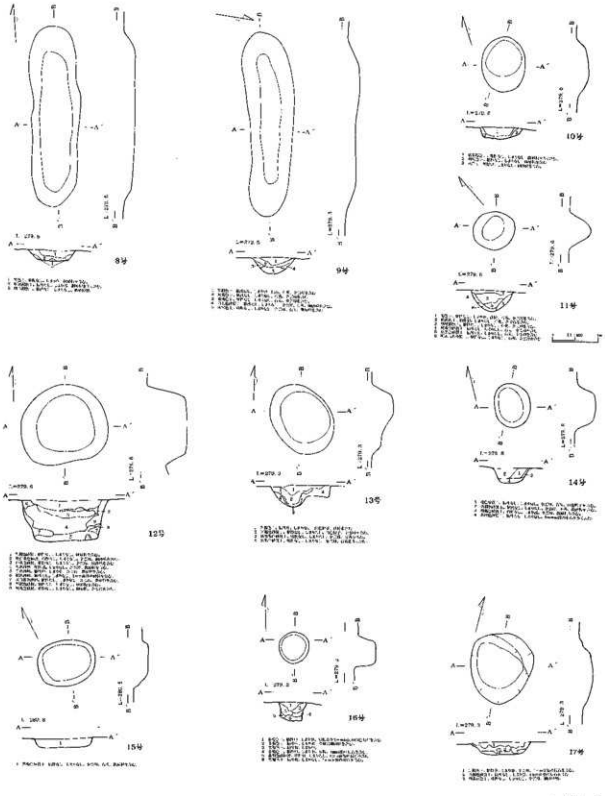
No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	図版
1	土師器	高坏	口径 16.5cm	細、長石・雲母	赤褐色	良	坏部内面に朱。	10
2	土師器	甕	器高 18.6cm 口径 14.8cm 底径 0.9cm	細、長石多、小石、雲母	茶褐色	やや良	底部尖底気味、胴部丸み、口辺部にかけてない湾、頸部大きく外反。	10
3	土師器	小型壺	器高 14.1cm 口径 11.1cm 底径 5.2cm	緻密	茶褐色	良好	胴部中央最大径。口縁部直線的に外傾、口唇部僅かに内湾。	10

4．時期不明の遺構

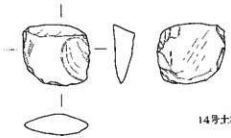
A．土坑（第36・37図、図版11－1～6）

10基があり、平面形態は土坑8・9などの長楕円形のものや土坑10～17の円形のタイプに大別される。後者のものは、土坑12・16のように断面が台形状で掘り込みがしっかりとしたものや浅いものなどがある。

第27～28表に一覧としてまとめた。



第36図　8～17号土坑



14号土坑

15号土坑

第37図　14・15号土坑出土遺物

第27表　8～17号土坑一覧

No	位置	規模（m）			形態	備考	図版
		長軸	短軸	最深			
8号	第2区	4.1	1.1	0.25	長楕円形		
9号	第4区	4.2	0.95	0.37	長楕円形		11－1
10号	第1区	1.25	1.0	0.27	楕円形		11－2
11号	第2区	0.95	0.88	0.48	楕円形		11－3
12号	第1区	1.95	1.8	0.90	楕円形		11－4
13号	第1区	1.7	1.25	0.50	楕円形		
14号	第5区	1.0	0.8	0.45	楕円形	石器が出土。	11－5
15号	第5区	1.3	1.05	0.35	楕円形	坏が出土。	
16号	第7区	0.72	0.68	0.47	円形		11－6
17号	第7区	1.62	1.4	0.28	楕円形		

第28表　14号土坑出土遺物

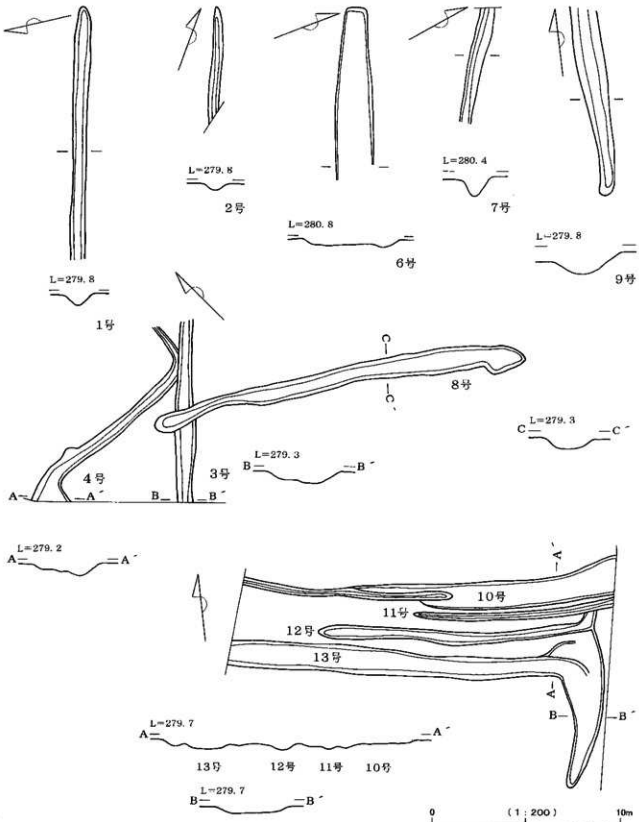
No	器種	計測値（cm）			石質	備考	挿図	図版
		最大長	最大幅	最大厚				
1	礫器	5.3	4.8	1.6	粘板岩		37	

第29表　15号土坑出土遺物

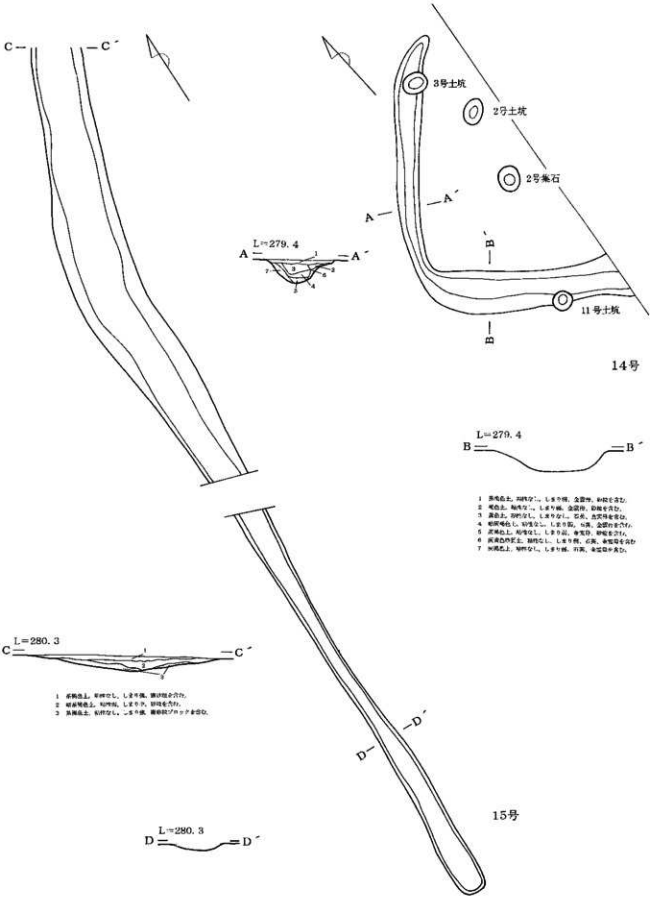
No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図
2	土師器	坏	器高　(3.7cm) 口径　(12.4cm) 底径　(4.0cm)	キメ細かく緻密。	茶褐色	良	口辺部横ナデ仕上げ。	第37図

B．溝状遺構（第38・39図、図版11－7～11、12－1～3）

14条の溝状遺構がある。5号溝状遺構のようにV字状の深い掘り込みをもつものは無く、ほとんどのものが浅い。それぞれの遺構からは縄文～弥生時代の遺物が出土しているが、ほかに遺構外からも中世から近世にかけてのものもあることから該期に相当するものもあると思われる。

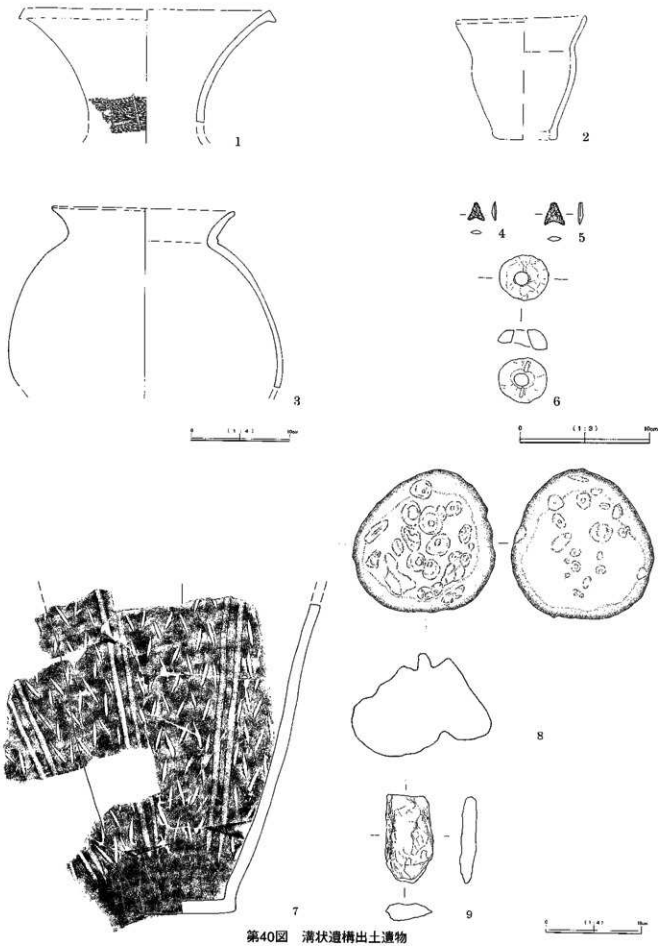


第38図　溝状遺構(1)



第39図　溝状遺構(2)

0　(1：200)　10m



第40図　溝状遺構出土遺物

第30表　1～4・6～15号溝状遺構一覧

No	器種	規模（m）			備考	図版
		最大長	最大幅	深さ		
1号	第3区	(13.7)	0.8	0.22		11－7
2号	第3区	(6.3)	0.6	0.15		11－8
3号	第7区	(9.7)	1.1	0.20	壺などが出土。	11－11
4号	第7区	(13.0)	0.7	0.25		11－11
6号	第5区	(9.6)	2.0	0.15	壺などが出土。	11－9
7号	第5区	(6.3)	0.9	0.44		11－10
8号	第7区	20.2	1.4	0.23		12－1
9号	第2区	(10.0)	1.5	0.50		12－1
10号	第2区	(19.8)	1.8	0.10	石鏃などが出土。	12－1
11号	第2区	(10.7)	0.5	0.15		12－1
12号	第2区	(15.0)	0.8	0.20		12－1
13号	第2区	(15.3)	2.2	0.20		12－1
14号	第2区	(23.0)	2.3	0.48	縄文土器、弥生の壺、石器などが出土。	12－1
15号	第1・3区	(50.0)	3.5	0.30	石製品が出土。	12－2

第31表　溝状遺構出土遺物

3号溝状遺構出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
1	土師器	壺	口径　25.4cm	粗。長石・砂粒・金雲母	明灰茶色	良	若段口縁で、口唇部には櫛描波状文を施す。頸部外面には横位の櫛描沈線を施し、等間隔に縦位の沈線で区画する。	第40図 図版12－3
2	土師器	小壺型	器高　13.0cm 口径　12.9cm	粗。砂粒・小石・金雲母	暗茶色	不良		第40図 図版12－3

6号溝状遺構出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
3	土師器	壺	口径　18.3cm	粗。長石・小石・金雲母	明茶褐色	良	口縁部ナデ調整。	第40図 図版12－3

10号溝状遺構出土の石器

No	器種	計測値（cm）			石質	備考	挿図	図版
		最大長	最大幅	最大厚				
4	石鏃	1.5	1.3	0.3	黒曜石		40	12－3
5	石鏃	(1.8)	1.5	0.4	黒曜石		40	12－3

15号溝状遺構出土の石器

No	器種	計測値（cm）			石質	備考	挿図	図版
		最大長	最大幅	最大厚				
6	不明	(3.6)	(3.3)	(1.5)	滑石		40	12－3

14号溝状遺構出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	挿図・図版
7	縄文土器	深鉢	底径　10.2cm	全体に長石・石英・小石を含む。	淡茶褐色	良	2本の沈線により縦位区画が成され、区画された中を「八」の字の沈潜で縦位に充填。	第40図 図版12－3

No	器種	計測値（cm）			石質	備考	挿図	図版
		最大長	最大幅	最大厚				
8	叩き石	14.9	14.6	10.1	花崗岩		40	12－3
9	打製石斧	9.2	5.1	1.8	片岩		40	12－3

第３章　遺構外出土遺物

今回の調査では、断続的であるが縄文～中・近世までの数多くの遺物が遺構外から出土している。

以下、各時期の遺物について簡単にその概要をみていきたい。

縄文時代（第41～44図、図版13－１～３）　１～84である。１～22は前期後半～中期初頭に相当する。この内、１～５は前期後半諸磯ｃ式、６～22は前期末十三菩提式併行のものから中期初頭の五領ヶ台式にあたると思われる。23～36は中期前半藤内～井戸尻式に相当する。37～77は中期末業のもので今回量的に最も多く出土している。78～84は後期で、78～81は堀の内式、82～84は加曽利Ｂ式である。

弥生時代（第44図、図版13－４）　該期の遺物は85～100である。85～88は条痕文系、93～100は櫛描文系で波状文や簾状文などがみられる。前者は前期、後者は後期にそれぞれ相当するものであろう。

古墳時代（第45図、図版13－５・６）　該期の遺物は101～123が上げられる。101～112は台付甕で101～109はＳ字状の口縁部で今回量的にも第３区以北にかけてまとまって出土している。113・114は器台形土器、115・116は高坏である。117・118・120は壺類で117・118は小型のものである。119は甕で、121は鉢、122・123は底部の中央に1ヶ所だけ穿孔された甑である。

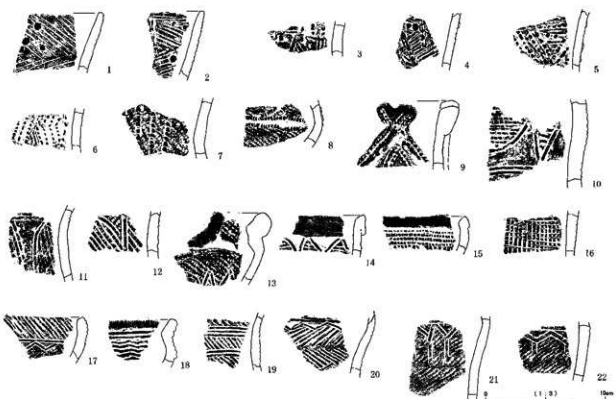
平安時代（第46図、図版13－６）　該期の遺物は非常に少ない。124～127などの坏類と128～133の須恵器・灰釉陶器類がある。

中世（第46図、図版13－６）　134～138があり、134・135はいわゆるカワラケである。137・138は青磁片で幅広の蓮弁が部分的に観察される。

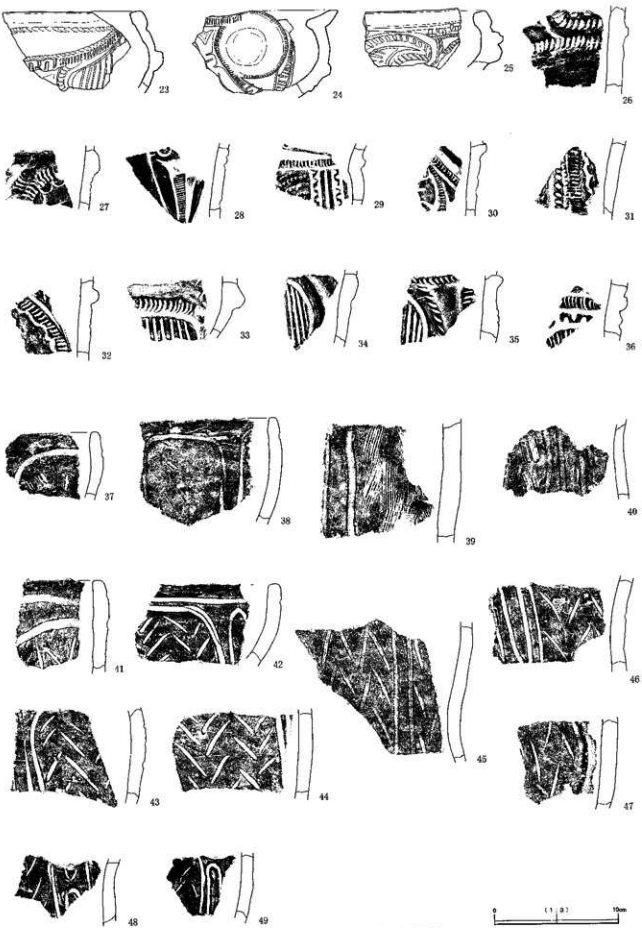
近世以降（第46図、図版13－６）　139の碗、140の擂鉢などがある。

土製品・石器（第46・47図、図版13－７・８）　141～143は土製品で、144～165は石器である。とくに縄文時代を中心としたものが多く出土している。165は有孔磨製石鏃で１点出土している。

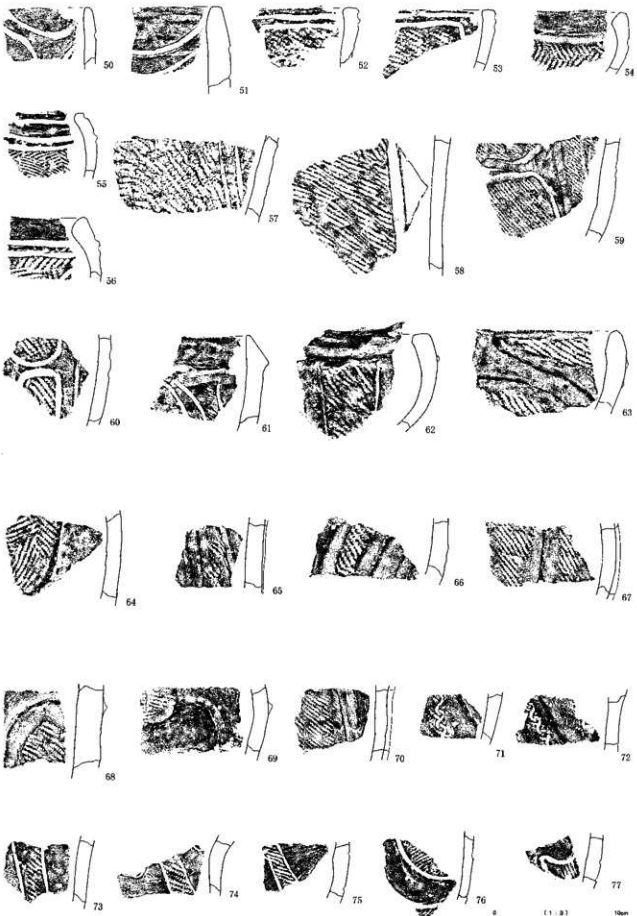
鉄製品（第47図）　出土したものは少なく２点を掲載した。



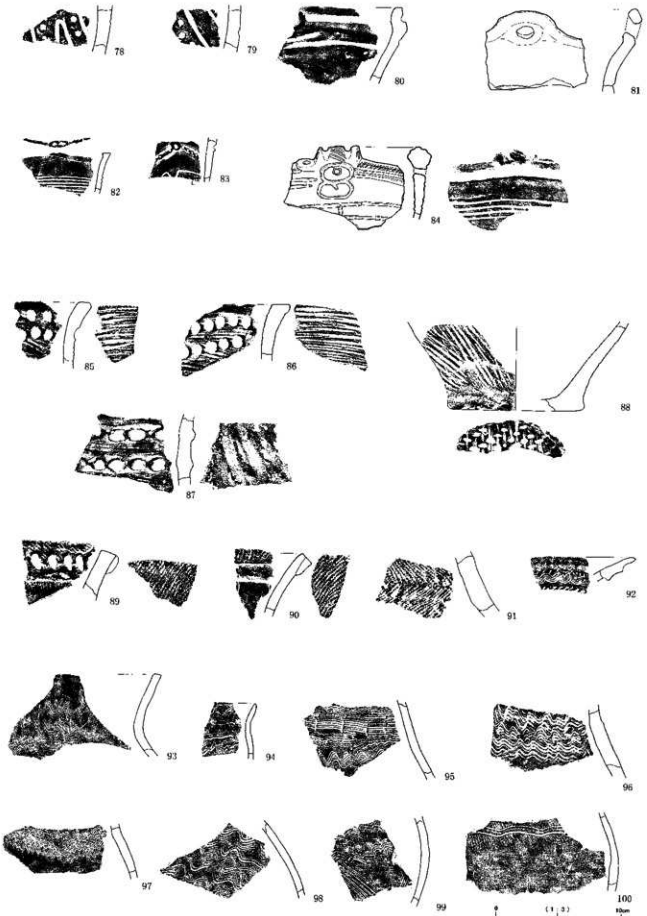
第41図　遺構外出土遺物(1)　縄文前期後半～中期初頭



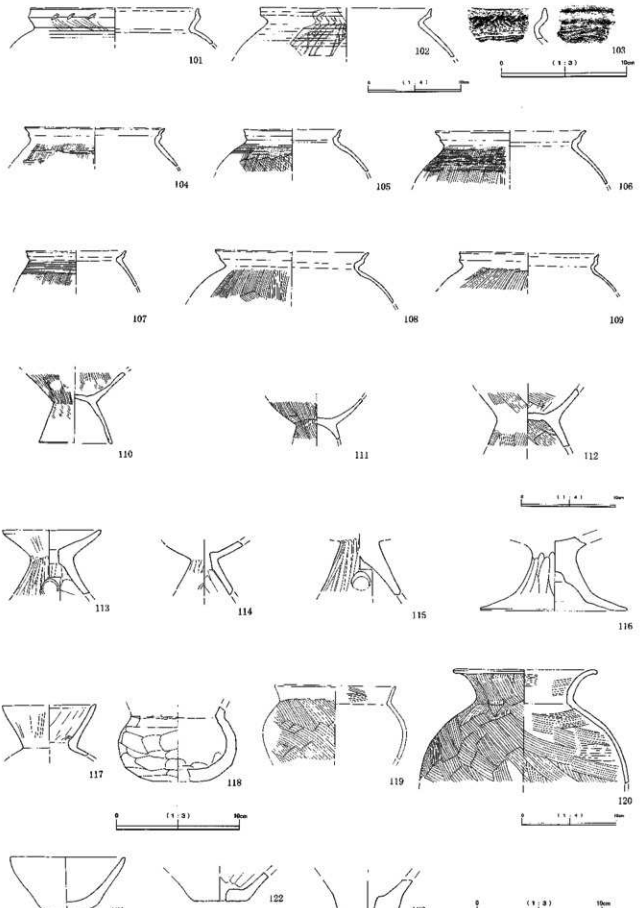
第42図　遺構外出土遺物(2)　縄文中期



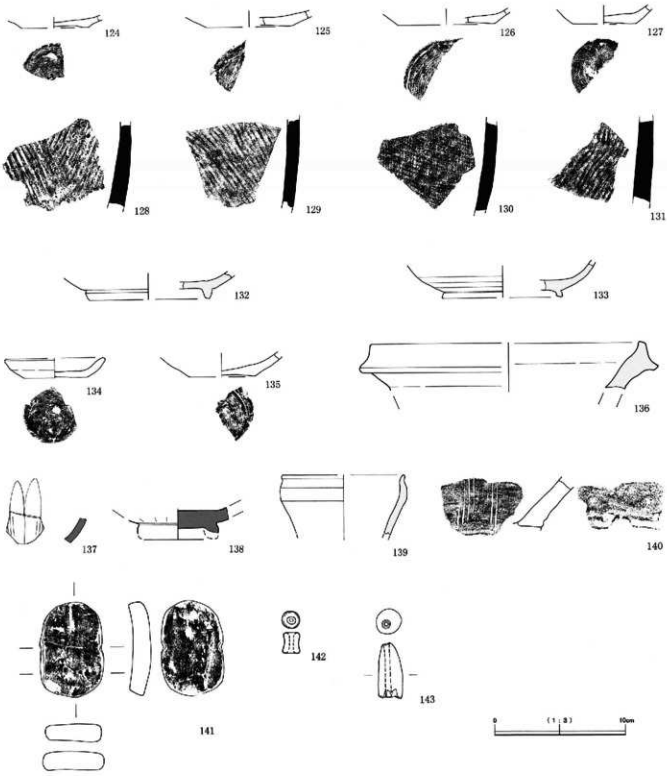
第43図　遺構外出土遺物(3)　縄文中期



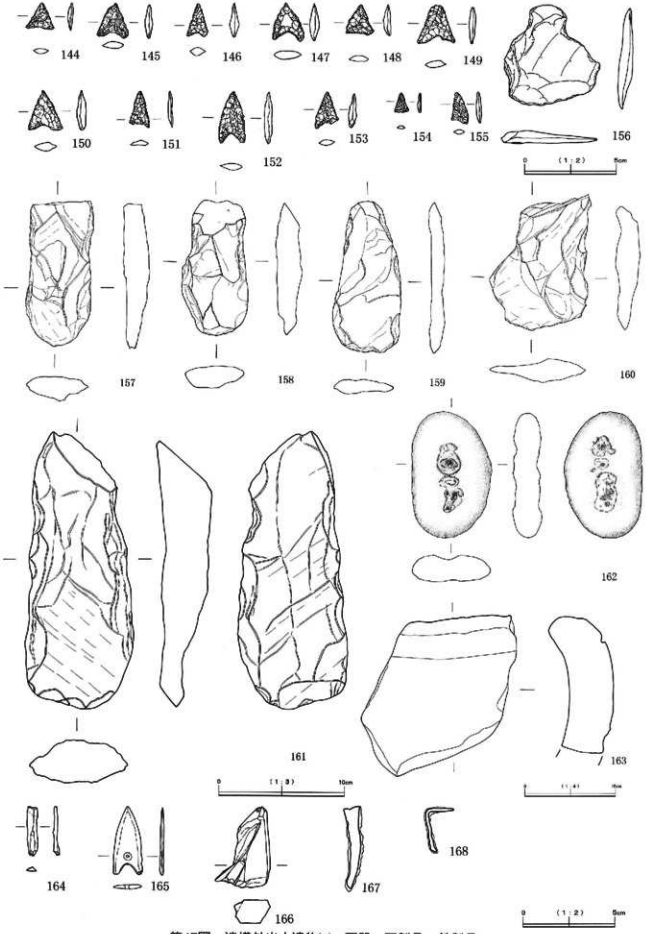
第44図　遺構外出土遺物(4)　縄文後期・弥生



第45図　遺構外出土遺物(5)　土師器



第46図　遺構外出土遺物(6)　土師器・須恵器・陶磁器・土製品



第47図　遺構外出土遺物(7)　石器・石製品・鉄製品

No.	出土地区	種別	番号	遺構	文様・調整・特徴	胎土	色調	焼成	図版
第41図1	1区	縄文土器	1	住居跡	矢羽状沈線、刺突縄文	やや粗、赤色粒子、石英、石英、黒色雲母	赤褐色	良	13-1
第41図2	7区	縄文土器	1	住居跡	矢羽状沈線、日本列島付え、結節沈線文	やや粗、赤色粒子、長石、石英、黒色雲母	赤褐色	良	13-1
第41図3	1区	縄文土器	1	住居跡	結節沈線文、結節沈線文、刺突の加えられた羽状縄文	やや粗、赤色粒子、長石、石英、黒色雲母	赤褐色	良	
第41図4	1区	縄文土器	1	住居跡	羽状縄文、結節沈線文、結節沈線文	やや粗、赤色粒子、長石、石英、黒色雲母	赤褐色	良	
第41図5	1区	縄文土器	1	住居跡	沈線、羽状縄文、結節沈線文	粗、赤色粒子、石英	赤褐色	良	13-1
第41図6	1区	縄文土器	1	住居跡	縄文沈線文	やや粗、赤色粒子、石英、黒色雲母	暗赤褐色	良	13-1
第41図7	4区	縄文土器	1	住居跡	縄文沈線文、結節沈線文	やや粗、赤色粒子、石英、黒色雲母	暗赤褐色	良	13-1
第41図8	6区	縄文土器	1	住居跡	縄文沈線文、結節沈線文	やや粗、赤色、石英、黒色雲母	暗赤褐色	やや良	
第41図9	7区	縄文土器	1	住居跡	結節沈線文	やや粗、赤色粒子、長石、石英、黒色雲母	暗赤褐色	良	13-1
第41図10	4区	縄文土器	1	住居跡	沈線	やや粗、長石、黒色雲母	黄褐色	やや良	
第41図11	5区	縄文土器	1	住居跡	沈線	粗、石英、金色雲母	赤褐色	やや良	
第41図12	4区	縄文土器	1	住居跡	縄文沈線文、結節沈線文、沈線	やや粗、赤色粒子、長石、石英、黒色雲母	明赤褐色	良	13-1
第41図13	3区	縄文土器	1	住居跡	縄文沈線文、沈線	やや粗、赤色、長石、黒色雲母	明赤褐色	良	13-1
第41図14	4区	縄文土器	1	住居跡	沈線	やや粗、赤色、石英、黒色雲母	にぶい赤褐色	良	13-1
第41図15	4区	縄文土器	1	住居跡	沈線	やや粗、赤色粒子、長石、黒色雲母	にぶい赤褐色	良	
第41図16	6区	縄文土器	1	住居跡	沈線	やや粗、赤色、石英、黒色雲母	にぶい赤褐色	良	
第41図17	5区	縄文土器	1	住居跡	沈線	やや粗、長石、石英、黒色雲母	にぶい赤褐色	良	13-1
第41図18	7区	縄文土器	1	住居跡	沈線	やや粗、石英、黒色雲母	明赤褐色	良	
第41図19	7区	縄文土器	1	住居跡	沈線	やや粗、赤色粒子、石英、黒色雲母	赤褐色	良	13-1
第41図20	3区	縄文土器	1	住居跡	矢羽状沈線	やや粗、長石、石英、黒色雲母	赤褐色	良	13-1
第41図21	1区	縄文土器	1	住居跡	地文縄文、沈線	やや粗、赤色粒子、石英、黒色雲母	暗赤褐色	良	13-1
第41図22	4区	縄文土器	1	住居跡	地文縄文、沈線	やや粗、長石、石英、黒色雲母	にぶい赤褐色	良	13-1
第42図23	4区	縄文土器	1	住居跡	波状、刺突、沈線	やや粗、赤色粒子、石英、黒色雲母	にぶい赤褐色	良	13-1
第42図24	6区	縄文土器	1	住居跡	波状、刺突、沈線	粗、赤色粒子、石英	暗赤褐色	良	13-1
第42図25	3区	縄文土器	1	住居跡	波状、刺突、沈線	やや粗、赤色粒子、長石、石英、金色雲母	にぶい赤褐色	良	13-1
第42図26	4区	縄文土器	1	住居跡	波状、キャタピラ文	やや粗、石英、黒色雲母	にぶい赤褐色	良	13-1
第42図27	4区	縄文土器	1	住居跡	刺突、キャタピラ文、沈線	やや粗、赤色粒子、石英、金色雲母	暗赤褐色	良	
第42図28	6区	縄文土器	1	住居跡	沈線	やや粗、赤色粒子、石英	黄褐色	良	
第42図29	一括	縄文土器	1	不明	波状、沈線、刺突	やや粗、赤色粒子、石英	にぶい赤褐色	良	13-1
第42図30	6区	縄文土器	1	不明	波状、刺突、沈線	粗、長石、石英	褐色	良	13-1
第42図31	6区	縄文土器	1	不明	波状、沈線、キャタピラ文	やや粗、赤色粒子、石英	にぶい赤褐色	良	13-1
第42図32	4区	縄文土器	1	不明	刺突、沈線、結束文	粗、石英、黒色雲母	褐色	良	13-1
第42図33	4区	縄文土器	1	不明	刺突、波状、沈線	粗、石英、金色雲母	にぶい赤褐色	良	13-1
第42図34	3区	縄文土器	1	不明	刺突、波状、沈線	やや粗、石英、黒色雲母	にぶい赤褐色	良	13-1
第42図35	1区	縄文土器	1	不明	刺突、波状、沈線	やや粗、赤色粒子、石英、黒色雲母	褐色	良	13-1
第42図36	5区	縄文土器	1	不明	刺突、沈線、刺突	粗、石英、黒色雲母	にぶい褐色	良	
第42図37	2区	縄文土器	1	縄文	沈線、ハの字地論条縄	粗、赤色粒子、石英、白色粒子	赤褐色	良	13-2
第42図38	2区	縄文土器	1	縄文	沈線、縄押文様	粗、赤色粒子、石英、赤色粒子	にぶい赤褐色	良	13-2
第42図39	1区	縄文土器	1	縄文	沈線、ハの字地論条縄	粗、石英、白色、赤色粒子、金色雲母	黄褐色	良	13-2
第42図40	2区	縄文土器	1	縄文	沈線、ハの字地論条縄	やや粗、赤色粒子、長石、石英	にぶい褐色	やや良	13-2
第42図41	4区	縄文土器	1	縄文	沈線、ハの字沈線	やや粗、白色、赤色粒子、金色雲母	黄褐色	良	13-2
第42図42	2区	縄文土器	1	縄文	沈線、ハの字沈線	やや粗、白色、赤色粒子、黒・金色雲母	にぶい褐色	良	13-2
第42図43	1区	縄文土器	1	縄文	沈線、ハの字沈線	やや粗、白色、赤色粒子、黒・金色雲母	暗褐色	良	13-2
第42図44	2区	縄文土器	1	縄文	沈線、ハの字沈線	やや粗、長石、石英、赤色粒子、黒・金色雲母	黄褐色	良	13-2
第42図45	2区	縄文土器	1	縄文	沈線、ハの字沈線	やや粗、長石、石英、赤色粒子、金色雲母	にぶい赤褐色	良	13-2
第42図46	2区	縄文土器	1	縄文	沈線、ハの字沈線	やや粗、長石、石英、赤色粒子、黒・金色雲母	明赤褐色	良	13-2
第42図47	3区	縄文土器	1	縄文	沈線、ハの字沈線	粗、長石、石英、白・赤色粒子、金色雲母	明赤褐色	良	13-2
第42図48	2区	縄文土器	1	縄文	沈線、ハの字沈線	やや粗、長石、石英、赤色粒子、黒色雲母	にぶい赤褐色	良	13-2
第42図49	3区	縄文土器	1	縄文	沈線、ハの字沈線	やや粗、石英、黒色粒子	にぶい赤褐色	良	13-2
第43図50	2区	縄文土器	1	縄文	口唇刻目	やや粗、白色、金色雲母	にぶい赤褐色	良	13-2
第43図51	一括	縄文土器	1	縄文	沈線	やや粗、長石、石英、金・黒色雲母	にぶい赤褐色	良	13-2
第43図52	2区	縄文土器	1	縄文	地文LR縄文、沈線	粗、石英、長石、白色粒子、金色雲母	黒褐色	やや良	13-3
第43図53	3区	縄文土器	1	縄文	地文LR縄文、沈線	やや粗、長石、石英、赤・白色粒子、金色雲母	にぶい赤褐色	やや良	13-3
第43図54	1区	縄文土器	1	縄文	地文RL縄文、沈線	やや粗、長石、石英、黒色雲母	明褐色	やや良	13-3
第43図55	1区	縄文土器	1	縄文	地文LR縄文、沈線	やや粗、長石、石英、赤・白色粒子、金色雲母	赤褐色	良	
第43図56	1区	縄文土器	1	縄文	地文LR縄文、縄状帯	やや粗、長石、石英、赤色粒子、金色雲母	赤褐色	良	
第43図57	2区	縄文土器	1	縄文	地文LR縄文、沈線	やや粗、長石、石英、白色粒子、金色雲母	にぶい赤褐色	良	
第43図58	1区	縄文土器	1	縄文	地文無節R、楕円文	やや粗、長石、赤・白色粒子、金色雲母	にぶい赤褐色	良	
第43図59	3区	縄文土器	1	縄文	地文LR縄文、沈線	やや粗、石英、赤・白色粒子、金色雲母	暗褐色	良	13-3
第43図60	3区	縄文土器	1	縄文	地文LR縄文、沈線	粗、石英、赤・白色粒子、金色雲母	暗黒褐色	やや良	13-3
第43図61	1区	縄文土器	1	縄文	口唇刻目、地文LR縄文、沈線、縄押圧	やや粗、小石、石英、赤・白色粒子、金色雲母	にぶい赤褐色	良	13-3
第43図62	1区	縄文土器	1	縄文	地文LR縄文、沈線、縄押圧	やや粗、小石、石英、赤・白色粒子、金色雲母	明褐黒色	良	13-3
第43図63	1区	縄文土器	1	縄文	地文RL縄文、縄押圧	やや粗、長石、石英、赤・白色粒子、金色雲母	明褐色	良	13-3
第43図64	2区	縄文土器	1	縄文	地文LR縄文、縄押圧	やや粗、長石、石英、赤色粒子、金色雲母	明赤褐色	良	13-3
第43図65	2区	縄文土器	1	縄文	地文LR縄文、縄押圧	粗、赤・白色粒子	黒赤褐色	良	
第43図66	2区	縄文土器	1	縄文	無文、地文LR縄文、縄押圧	やや粗、長石、石英、赤色粒子	明褐色	良	13-3
第43図67	2区	縄文土器	1	縄文	地文LR縄文、縄押圧	やや粗、長石、石英、赤色粒子、金色雲母	明赤褐色	良	
第43図68	2区	縄文土器	1	縄文	地文LR縄文、沈線	やや粗、長石、赤・白色粒子、金色雲母	にぶい赤褐色	良	
第43図69	3区	縄文土器	1	縄文	無文、地文LR縄文、沈線	やや粗、石英、赤・黒色粒子、金色雲母	赤褐色	良	
第43図70	1区	縄文土器	1	縄文	沈線、地文LR縄文、縄押圧	やや粗、石英、赤色粒子、金色雲母	暗茶褐色	良	
第43図71	2区	縄文土器	1	縄文	地文LR縄文、結節沈線文、縄押圧	やや粗、石英、赤色粒子、金色雲母	にぶい赤褐色	良	13-3
第43図72	2区	縄文土器	1	縄文	結節沈線文、縄押圧	やや粗、小石、石英、赤色粒子、金色雲母	にぶい赤褐色	良	13-3
第43図73	2区	縄文土器	1	縄文	地文LR縄文、沈線	やや粗、小石、石英、赤色粒子、金色雲母	灰褐色	良	13-3
第43図74	2区	縄文土器	1	縄文	地文LR縄文、沈線	やや粗、小石、石英、赤色粒子、金色雲母	暗赤褐色	良	13-3
第43図75	一括	縄文土器	1	縄文	地文LR縄文、沈線	やや粗、小石、石英、赤・白色粒子	黒褐色	良	
第43図76	2区	縄文土器	1	縄文	地文LR縄文、沈線	やや粗、小石、石英、赤色粒子、金色雲母	にぶい褐色	やや良	13-3
第43図77	3区	縄文土器	1	縄文	地文LR縄文、沈線	やや粗、小石、石英、赤色粒子	にぶい褐色	やや良	13-3
第44図78	3区	縄文土器	1	縄文	沈線、口唇刻目、刺突	やや粗、石英、赤色粒子	明褐褐色	良	13-3
第44図79	3区	縄文土器	1	縄文	沈線、口唇刻目、刺突	やや粗、石英、赤色粒子	明褐褐色	良	13-3
第44図80	2区	縄文土器	1	縄文	沈線	やや粗、石英、赤・黒色粒子	にぶい褐色	良	
第44図81	2区	縄文土器	1	縄文	8の字状貼り、沈線	粗、石英、赤色雲母	暗灰褐色	良	13-3
第44図82	3区	縄文土器	1	縄文	口唇に刻み、8の字状貼り、沈線	粗、赤色粒子、石英	にぶい褐色	良	13-3
第44図83	2区	縄文土器	1	縄文	8の字状文、間空に刻み、沈線	粗、赤色粒子	明褐褐色	良	13-3
第44図84	1区	縄文土器	1	縄文	8の字状文、円孔有り、内外面に沈線	粗、石英、白色粒子、金色雲母	暗灰褐色	良	13-3
第44図85	4区	弥生土器	1	縄文	内外面条痕文、布目状の刺突	やや粗、長石、石英、赤色粒子、黒色雲母	暗赤褐色	良	13-4

第32表　遺構外出土遺物(1)

第44586	1区	弥生	口縁	部	内外面条痕文、石英含む
第44587	7区	弥生	胴	部	外面条痕文、押圧痕
第44588	5区	弥生	底	部	外面条痕文、底部穿孔
第44589	1区	弥生	口縁	部	口唇・内面口縁部、口唇刻み
第44590	2区	弥生	口縁	部	口唇・内面口縁部、外面ハケ
第44591	3区	弥生	胴	部	外面ヘラ磨文
第44592	4区	弥生	口縁	部	胴部、櫛描波状文
第44593	7区	弥生	口縁	部	櫛描波状文
第44594	1区	弥生	口縁	部	櫛描波状文
第44595	1区	弥生	胴	部	櫛描波状文、凹線文、凹線間櫛描波状文
第44596	7区	弥生	胴	部	櫛描波状文
第44597	7区	弥生	胴	部	櫛描波状文
第44598	1区	弥生	胴	部	櫛描波状文
第44599	1区	弥生	胴	部	櫛描波状文、内外面滑剥状文
第44600	7区	弥生	胴	部	櫛描波状文
第45101	4区	一般遺物	口縁	部	口縁部刻み、口縁部ハケ目、胴部回線き
第45102	2区	土師器	口縁	部	口縁部の型ハ、口縁部ハケ目、胴部櫛描き
第45103	4区	土師器	口縁	部	口縁部の型ハ、口縁部ハケ目
第45104	3区	土師器	口縁	部	外面ハケ目
第45105	4区	土師器	口縁	部	外面ハケ目
第45106	3区	土師器	口縁	部	外面ハケ目
第45107	4区	土師器	口縁	部	外面ハケ
第45108	3区	土師器	口縁	部	外面ハケ目
第45109	3区	土師器	口縁	部	外面ハケ目
第45110	3区	土師器	底台	部	外面ケズリ
第45111	3区	土師器	底台	部	外面ハケ目
第45112	3区	土師器	底台	部	外面ハケ目
第45113	4区	土師器	鉢台	部	内外面ハケ目
第45114	4区	土師器	杯	部	外面ハケ目
第45115	4区	土師器	杯	部	内外面ハケ目
第45116	3区	土師器	杯	部	内外面ハケ目
第45121	6区	土師器	口縁	部	内外面ヘラ磨き
第45122	4区	土師器	底	部	内面ヘラ磨き
第45123	1区	土師器	底	部	底部点状凹痕の凹孔
第46121	3区	土師器	底	部	糸切り痕
第46125	3区	土師器	底	部	糸切り痕
第46126	5区	土師器	底	部	底部糸切り痕、方面黒色
第46127	1区	土師器	底	部	底部糸切り痕、ヘラ磨痕
第46128	4区	須恵器	底	部	糸切り痕
第46129	1区	須恵器	胴	部	外面ヘラ
第46130	4区	須恵器	胴	部	糸切り痕
第46131	3区	須恵器	胴	部	外面ヘラ
第46132	2区	灰釉陶器	底	部	
第46133	2区	灰釉陶器	底	部	
第46134	3区	かわらけ	口縁	部	スス付着、糸切り痕
第46135	3区	かわらけ	底	部	糸切り痕
第46136	2区	陶器	口縁	部	考古資料
第46137	2区	瓦	底	部	青磁片、刷毛の痕が有り、点々部分火頃
第46138	3区	瓦	底	部	青磁片、刷毛の痕が有り
第46139	一括	陶器	口縁	部	鉄釉
第46140	2区	陶器	胴	部	鉄釉
第46141	2区	土製品			
第46142	4区	土製品			
第46143	4区	土製品			

やや暗	淡白、石英、赤色粒子、黒色雲母	新茶褐色	良	13	4
やや暗、長石、石英、赤色粒子、金色雲母		明茶褐色	良	13	4
やや暗	長石、石英、赤色粒子、白色雲母	にぶい褐色	良	13	4
やや白、石英、赤土粒子		褐色	良	13	4
やや暗、長石、石英		にぶい褐色	良	13	4
やや暗、石英、赤色粒子		にぶい赤褐色	やや良		
密、淡・白色粒子		明褐色	良	13	4
やや暗、小石、石英、赤色粒子		褐色	良	13	4
密、密、白色粒子、金色雲母		褐色	良	13	4
密、石英、白色粒子、金色雲母		明赤褐色	良	13	4
やや淡、石英、金色雲母		灰褐色	良	13	4
やや暗、石英、赤色粒子		にぶい赤褐色	良	13	4
やや暗、石英、赤色粒子、金色雲母		明灰褐色	良	13	4
やや暗、石英、赤色粒子、金色雲母		白褐色	良	13	4
粗、小石、石英、白色粒子、金色雲母		明赤褐色	良	13	4
やや暗、石英、赤色粒子、黒色雲母		赤褐色	良	13	5
密、石英、赤色粒子、黒色雲母		淡黒色	良	13	5
やや暗、石英、赤色粒子		灰褐色	良	13	5
やや暗、石英、赤色粒子、黒色雲母		灰褐色	良	13	5
やや暗、石英、赤色粒子、金色雲母		茶褐色	良	13	5
やや暗、石英、赤色粒子、金色雲母		茶褐色	良	13	5
やや暗、長石、石英、赤色粒子、金色雲母		茶褐色	良	13	5
やや暗、長石、石英、赤色粒子、金色雲母		茶褐色	良	13	5
やや暗、長石、石英、赤色粒子、金色雲母		茶褐色	良	13	5
粗、石英、赤色粒子		明茶褐色	良	13	5
緻密、赤色粒子		淡茶色	良		
密、赤色粒子		明茶褐色	良	13	5
緻密、赤色粒子		灰褐色	良		
粗密、淡白、赤色粒子		茶褐色	良		
緻密、赤色粒子、黒色雲母		茶褐色	良		
やや暗、淡白、赤色粒子		茶褐色	良	13	6
やや暗、長石、赤色粒子、黒色雲母		茶褐色	やや良	13	6
やや暗、長石、赤色粒子、白色雲母		明茶褐色	良		
やや暗、長石、赤色粒子、金色雲母		明茶褐色	良		
やや暗、長石、赤色粒子、黒色雲母		明茶褐色	良		
やや暗、長石、赤色粒子、黒色雲母		明茶褐色	良		
やや暗、長石、赤色粒子、黒色雲母		明茶褐色	良		
粗、長石		淡茶色	良	13	6
粗密、長石、赤色粒子		淡茶色	良	13	6
粗密、長石、赤色粒子		淡茶色	良	13	6
粗密、長石、赤色粒子		淡茶色	良	13	6
粗、長石		淡灰色	良	13	6
やや粗、長石、石英		淡灰色	良	13	6
やや粗、長石		暗灰色	良	13	6
やや粗、長石、石英		暗灰色	良	13	6
密		淡灰色	良	13	6
密、赤色粒子、金色雲母		淡灰色	良	13	6
密、金色雲母		淡赤色	良	13	6
密		淡赤褐色	良	13	6
密		淡赤褐色	良	13	6
やや粗、金色雲母		黒灰褐色	良	13	6
密、長石、白色		黒色	良		
密		明赤褐色	良		
密		淡灰色	良		
密		淡灰色	良		

No	器種	出土地点	最大長	最大幅	最大厚	石質	備考	図版
第47101	石鏃	2区	1.6	1.6	0.4	黒曜石	無茎	13 7
第47102	石鏃	不明	1.9	1.7	0.4	黒曜石	無茎	13 7
第47103	石鏃	2区	2.0	(1.1)	0.5	黒曜石	無茎	13 7
第47104	石鏃	4区	2.2	1.7	0.5	黒曜石	無茎	13 7
第47105	石鏃	1区	1.8	1.5	0.3	黒曜石	無茎	13 7
第47106	石鏃	3区	(2.2)	2.1	0.4	黒曜石	無茎	
第47107	石鏃	2区	2.2	1.9	0.6	黒曜石	無茎	13 7
第47108	石鏃	1区	(2.1)	(1.1)	0.25	黒曜石	有茎	13 7
第47109	石鏃	2区	3.1	1.4	0.4	黒曜石	無茎	13 7
第47110	石鏃	3区	1.9	(1.3)	0.3	黒曜石	無茎	13 7
第47111	石鏃	4区	(1.1)	(0.8)	0.2	黒曜石	無茎	13 7
第47112	石鏃	不明	1.8	(0.9)	0.25	黒曜石	無茎	
第47113	スクレイパー	4区	5.8	3.4	0.75	頁岩		13 7
第47114	打製石斧	4区	11.6	4.9	2.0	粘板石		13 8
第47115	打製石斧	2区	10.7	4.6	2.0	頁岩		13 8
第47116	打製石斧	4区	12.1	5.4	1.2	粘板石		13 8
第47117	打製石斧	2区	10.0	7.6	1.9	粘板岩		13 8
第47118	打製石斧	4区	22.3	8.7	3.3	粘板石		13 8
第47119	凹石	4区	13.6	8.4	2.9	花崗石		13 8
第47120	石皿	7区	(14.3)	(15.0)	(4.7)	花崗岩		13 8
第47121	砥石	6区	2.7	0.55	0.35	凝灰石		13 7
第47122	磨製石鏃	4区	3.8	1.6	0.2	粘板岩		13 7
第47123	木山	不明	4.4	2.8	1.3	赤鉄		
第47124	鉄製品	4区	4.3	0.9	0.7			
第47125	鉄製品	4区	2.5	0.3	0.3			

第33表　遺構外出土遺物(2)

第4章 まとめ

金の尾遺跡は、これまでに6回の本調査がおこなわれてきている。今回のⅣ次調査はⅠ次調査に次いで約4,200㎡と大規模な調査となり、縄文、弥生、古墳時代の数多くの遺構が発見された。

縄文時代 今回、住居跡1軒、竪穴状遺構1基、集石遺構2基、土坑2基が新たに発見された。このため、本遺跡では住居跡計9軒、竪穴状遺構計1基、そのほか集石遺構や多くの土坑がこれまでの調査で確認され、本町の南部ではこの時代の遺構や遺物が最も集中してみられる。

本遺跡ではこれまでのところ、最も古いものに早期の押型文土器の遺物があるが、明確な居住の痕跡は前期末葉からで住居跡1軒が確認され、また比較的まとまった前期末～中期初頭の土器類も出土している。

そして主体を成す時期は中期に入ってからで、これまで中期中葉では5軒の住居跡と竪穴状遺構1基が、中期末葉には3軒の住居跡が第Ⅰ・Ⅳ次調査において発見されてきている。

また、貢川に面した遺跡南部の周囲では中期の遺構・遺物は希薄になっていき、むしろ堀ノ内式期を中心とした後期の遺物などが目立つようになり、第Ⅲ次調査では縄文時代の土坑25基が発見されている。

断続的ではあるが、本遺跡内では小期における土地利用の変遷が窺える。

弥生時代 住居跡は1軒のみで主には墓域となる周溝墓群（計6基）を中心に発見され、ほか土坑1基や溝状遺構1条があり、第Ⅰ次調査で発見された弥生時代集落跡北部の様相を明らかにすることができた。

今回の計6基の周溝墓は、小型のもので一辺約5m（9号）、大きなものには一辺約20m（5号）を測り、大小の差が明確で、しかも後者の5号周溝墓はこれまで本遺跡で発見されたものの中では最大規模を誇る。

また、6号周溝墓の調査では第Ⅰ次調査で検出された6号周溝墓の北東半部を調査することができた。これは一辺約18～19mを測り、先の5号周溝墓に次いで2番目の規模となる大型の周溝墓とみられる。

これらの周溝墓の分布状況についてみると、第2・7区では認められず、また北部の第4・5・6区においても同様で、本遺跡の周溝墓群の広がりは第Ⅰ次調査による周溝墓の出土状況からみてもわかるように、調査区全体の内、その西側（第1・3区）に偏在する傾向がある（第48図）。

なお、発見された6基の周溝墓と2号住居跡の時期については、それぞれ出土した土器などから、弥生時代後期（弥生5期）に属するとみられる。

次に、第Ⅰ次調査で発見された南北2群の集落を画するとされたV字状の溝（12号溝）は、その北側の続きが確認され、今回5号溝状遺構として報告する。5号溝状遺構は多くの壺や甕などの遺物を出土し、第Ⅰ次調査の12号溝の北側から東側方向へと緩やかなカーブを描きながら延びていくことが明らかとなった。また、第Ⅰ次調査でいう「南側集落」を弧状に区画していくようである（第48図）。

第Ⅰ次調査の調査区全体からは計32軒もの該期の住居跡が発見されたにもかかわらず、今回は第7区の南東隅において2号住居跡が1軒発見されただけであった。この2号住居跡は、12号溝（Ⅰ次）と5号溝（Ⅳ次）の一連の溝により区画された「南側集落」内に属しているが、今回5号溝状遺構を境としていわゆる「南側集落」の外側にあたる北側調査区では該期の住居跡は一軒も発見されないという結果が得られた。

このように、6基の周溝墓は大小の規模の差がかなり明確に存在し、第Ⅰ次調査では集落内での墓域と居住域があまり判然としなかったが、今回の調査区では明確に周溝墓群（第1・3区）とその南側からは第Ⅰ次調査でいわれる「南側集落」を区画するV字状の溝（5号住居跡）が巡り、集落域と墓域がかなり明確に分離された状態が窺われる。

古墳時代 本遺跡における古墳時代の様相はこれまで明らかでなかったが、今回3基の竪穴状遺構と周溝墓3基、住居跡1軒、土坑4基が確認され、また遺構外から台付甕などを中心とした土器類が豊富に出土した。

3基の竪穴状遺構は、1・3号竪穴状遺構が4世紀中頃、2号竪穴状遺構は4世紀後半と考えられる。そして、周溝墓については、3号周溝墓は4世紀後半～5世紀前半、7号周溝墓は4世紀後半頃とみられる。

これまでも、本遺跡の南側に位置する第Ⅰ・Ⅲ次の調査では、若干の前期の遺物が出土してはいたが調査面

積に比べ量的に僅少で、むしろ今回の調査区の第３区から北半部を中心に遺構や遺物が比較的多く検出される傾向が窺えた。このような本遺跡北部の前期の様相は、過去におこなわれた第Ⅱ・Ⅵ次地点の調査状況からも窺える（第２図）。第Ⅱ調査地点では古墳時代前期の住居跡１軒が発見され、そして、第Ⅵ次調査地点では、弥生時代の環濠跡（約56m）とみられる最大幅約2.5m、最深部約1.5mの溝跡が確認されているが、調査の結果この濠は１mほど埋没した後、わずかに窪地となった段階で古墳時代前期の台付甕、器台形土器、高坏など約200個体分に相当する量の土器群が投げ込まれるように堆積していた状況が捉えられている。

現状では本遺跡北半部はほとんど調査の手が及んでおらず詳細は明らかでないが、以上にみてきたように各調査における所見等から勘案して、古墳時代前期の集落跡が遺跡の北側に展開している可能性は十分にある。今回の結果からみて、第Ⅳ次調査区の北半部はちょうど前期集落域の南縁に相当するものと予想される。

２号周溝墓からは、「壺形埴輪」が出土した。この「壺形埴輪」は二重口縁壺の形態を呈しており、口縁部から極わずかに残存する肩部にかけてのものであったが、おそらく初現期の埴輪に相当するとみられる。

ここで県内の状況を概観すると、壺形埴輪を伴う古墳には中道町銚子塚古墳（全長169mの前方後円墳、県下最大規模）、同町丸山塚古墳（径72mの円墳）、八代町岡・銚子塚古墳（全長92mの前方後円墳）、甲西町大師東丹保古墳（径約36mの円墳？）が上げられる。時期は、銚子塚古墳と岡・銚子塚古墳は４世紀後半、丸山塚古墳と大師東丹保古墳は５世紀初頭と想定されているが、大師東丹保古墳以外は器台形円筒埴輪や普通円筒埴輪などと伴に「壺形埴輪」が出土している。現状では、壺形埴輪のみを伴う例は大師東丹保古墳だけであり、以後の継続性は認められないようである（保坂1997）。

本遺跡で発見された２号周溝墓（方形低墳墓）は、出土した壺形埴輪は二重口縁部のみの出土であったが、外面は縦ハケ、内面は横ハケの調整が行われ、形態は中央の括れ部などの状態をみるとかなり退化している様子が窺え、しかも透孔も認められないことから、大師東丹保古墳例と類似しており、おそらく時期的にも４世紀末～５世紀初頭にほぼ併行するものと考えられる。

第48図　金の尾遺跡南部第Ⅰ・Ⅳ次調査区

遺構の形態は、方形周溝墓に類似した低墳墓系であるが、このような形態の低墳墓は古墳時代中期（5世紀）まで残存することから、2号周溝墓は「壺形埴輪」を伴った方形低墳墓として捉えることができよう。

以上みてきたように、県内の初現期の埴輪を出土する銚子塚古墳、岡・銚子塚古墳、丸山塚古墳は笛吹川水系に分布し、大師東丹保古墳は富士川水系に属しているが、今回本遺跡で発見された方形低墳墓（2号周溝墓）は「壺形埴輪」を伴う墳墓としては富士川をさらに遡る資料であり、釜無・富士川水系での広範な分布状況を示唆する新たな資料を追加することとなったといえ、しかも県内における該期の社会動向を探る上でも貴重な資料といえよう。

古墳時代中期の住居跡（1号住居跡）が1軒確認された。炭化材、焼土が多く検出され、焼失家屋となって埋没していた。本住居跡にはまだカマドは無く、住居跡の床面中央から東寄りの位置に焼土を含んだ炉跡が確認された。出土した遺物は、甕、甑、坏、高坏など比較的豊富な器種が揃っており、これらのものは住居跡の南東コーナーを中心にまとまっていた。

敷島町内では、該期の住居跡は本遺跡の北側に隣接する御岳田遺跡で1軒これまでに確認されているが、出土した遺物から半球形の坏が主体を占めて多く出土しているため5世紀後半に位置づけられている。

今回、本遺跡で発見された1号住居跡は、遺構の状態からは未だ炉跡を有し、遺物では有段高坏の脚や有段口縁壺の口縁があり、坏類については数が少ない状況であった。そのため、先にみた御岳田遺跡の2号住居跡に比べ古い様相であることが窺われ、1号住居跡は5世紀前半に相当するものと思われる。

古代以降　明確な遺構は見当たらず、平安時代の土師器や中・近世の遺物などが若干出土している。

以上のように、本遺跡は縄文から古代にかけて断続的に複合した遺跡で、これまでの調査でも町内では古代以降の遺跡が多い中で、むしろ逆に古い時代の内容が埋没している遺跡である。

本遺跡は、1978年の第1次の調査により弥生時代後半の集落と墓域を中心とした県内でも数少ない貴重な遺跡であることは周知のとおりである。しかし、今回の調査をとおし、これまで認識されていた弥生時代後半の集落構造の把握だけに留まることなく、新たに本遺跡では古墳時代前期の集落と墓域が存在することが明らかとなってきた。また、1号住居跡の検出から少なくとも古墳時代中期前半までは多少の断絶はあるにせよ居住の痕跡が継続していることが、今回はじめて浮き彫りにされたことは大きな成果であったといえよう。

最後に本報告では詳細な遺物の検討や集落の変遷過程について過去の調査結果を踏まえしっかりとした吟味をすることができなったのは残念であるが、更なる今後の調査のなかで明らかにしていきたい。

引用・参考文献

末木健・他　1987『金の尾遺跡　無名墳（きつね塚）』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第25集
森原明廣　1991『金の尾遺跡 -第Ⅱ次発掘調査報告書』敷島町文化財調査報告第1集
敷島町教育委員会　1992『天狗沢瓦窯跡と古代甲斐国』第2回敷島歴史フォーラム
大嶋正之　1999『金の尾遺跡Ⅵ』敷島町文化財調査報告第7集
大嶋正之　1999『御岳田遺跡』敷島町文化財調査報告第8集
大嶋正之・小坂隆司　2001『金の尾遺跡Ⅲ』敷島町文化財調査報告第9集
大嶋正之　2001『埋蔵文化財試掘調査年報'01』敷島町文化財調査報告第10集
敷島町誌編纂委員会　1966『敷島町誌』敷島町役場
十菱駿武　1988『竜王町の遺跡－竜王町遺跡詳細分布調査報告』山梨県中巨摩郡竜王町教育委員会
高野玄明　1995『樋口遺跡』山梨県教育委員会
萩原孝一・米山　真　1997『宮羽遺跡』山梨県教育委員会
保坂和博　1997『大師東丹保遺跡　Ⅳ区』山梨県教育委員会
米田明訓　1999『十五所遺跡』　山梨県教育委員会
山梨県史編纂委員会　1998『山梨県史　資料編2　原始・古代2』山梨県

写真図版

図版1

遺跡全景

1　3号住居跡

2　3号住居跡遺物出土状態

3　4号竪穴状遺構

4　4号竪穴状遺構遺物出土状態

5　1号集石遺構

6　2号集石遺構完掘

7　2号土坑

8　1号土坑

9　1号土坑断面

図版 3

1　3住－1

2　3住－3

3　3住－4

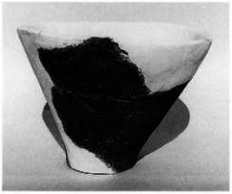
4　3住－5

5　4竪－1

6　4竪－2

7　4竪－3・4

8　1土－1（上）



9　1土－1（下）

10　2土－2

縄文時代遺構内出土遺物

1　2号住居跡

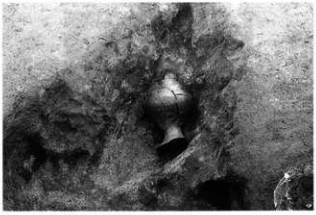
2　2号住居跡出土遺物

3　周溝墓群

4　1号周溝墓

5　1号周溝墓遺物出土状態

6　4号周溝墓



7　4号周溝墓遺物出土状態(1)

8　4号周溝墓遺物出土状態(2)

図版 5

1　5号周溝墓

2　5号周溝墓遺物出土状態(1)

3　5号周溝墓遺物出土状態(2)

4　5号周溝墓　断面

5　6号周溝墓

1　8号周溝墓

2　9号周溝墓

3　9号周溝墓遺物出土状態

4　9号周溝墓内集石遺構

5　5号溝状遺構

6　5号溝状遺構遺物出土状態

7　3号土坑

図版 7

1　1周－1

2　4周－1

3　5周－1

4　5周－2

5　5周－3

6　5周－4

7　6周－1

10　1周－3

11　1周－2

8　9周－1

9　3土－1

12　5周－5

13　5周－6

14　6周－3

15　6周－4

16　8周－1

弥生時代遺構内出土遺物

1　1号竪穴状遺構

2　2号竪穴状遺構

3　3号竪穴状遺構

4　3号周溝墓

5　7号周溝墓

6　2号周溝墓

7　1号住居跡

8　1号住居跡　炭化材および遺物出土状態

図版9

1　4号土坑

2　5号土坑

3　6号土坑

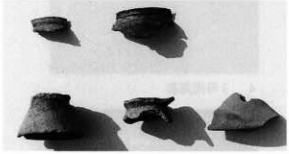
4　7号土坑

5－1　1竪－1～6

5－2　1竪－7

5－3　2竪－1～3

5－6
3竪－7



5－4　3竪－1～5

5－5　3竪－6

5－7　3周土坑内－1

5－8　3周－8

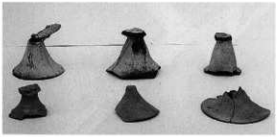
5－9　3周－7

5－10　3周－5

5－11　3周－1・2

5－12　3周－4

5－13　3周－3



5－14　3周－9～14

5　古墳時代遺構内出土遺物(1)

1　7周－1

2　7周－2

3　7周－3

4　2周－1

5　1住－1

6　1住－3

7　1住－2

8　1住－5

9　1住－6

10　1住－7～9

11　1住－4

12　1住－10

13　1住－11

16　7土－1

17　7土－3

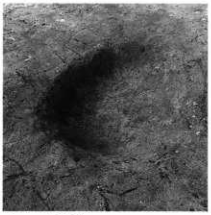
14　4土－1

15　4土－2

18　7土－2

図版11

1　9号土坑



2　10号土坑

3　11号土坑

4　12号土坑

5　14号土坑

6　16号土坑

7　1号溝状遺構

8　2号溝状遺構

9　6号溝状遺構

10　7号溝状遺構

11　3～5号溝状遺構

1　8～14号溝状遺構

2　15号溝状遺構

3－1、3溝

3－2、3溝

3－3、6溝

3－7、14溝

3－7、10溝　3－6、15溝

3－8・9、14溝

3　溝状遺構出土遺物

5溝－1

5溝－2

5溝－5

5溝－4

5溝－3

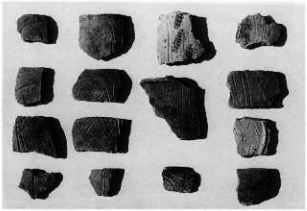
5溝－6

5溝－7

5溝－8

4　5号溝状遺構出土遺物

1　遺構外出土遺物（縄文１）



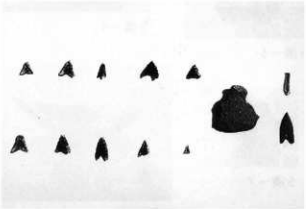
2　遺構外出土遺物（縄文２）

3　遺構外出土遺物（縄文３）

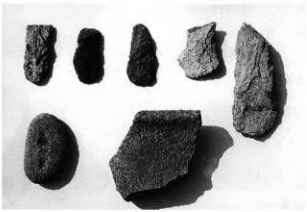
4　遺構外出土遺物（弥生）

5　遺構外出土遺物（古墳）

6　遺構外出土遺物（古墳～近世）



7　遺構外出土遺物（石器１）



8　遺構外出土遺物（石器２）

報告書抄録

ふりがな	かねのおいせき
書名	金の尾遺跡 Ⅳ
副書名	
巻次	
シリーズ名	敷島町文化財調査報告書
シリーズ番号	24
編著者名	大嶌正之・小坂隆司
編集機関	敷島町教育委員会
所在地	〒400-0123 山梨県中巨摩郡敷島町島上条1020
発行年月日	平成16年7月15日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
かねのおいせき 金の尾遺跡	山梨県 中巨摩郡 敷島町大下条631	193928	1			平成5年 10月18日 ～ 平成6年 5月9日	約4,200	遊技場建設事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
金の尾遺跡	集落跡	縄文時代 ～ 古墳時代	住居跡周溝墓 竪穴状遺構 土坑溝状遺構	縄文土器 弥生土器 土師器 陶磁器 石器	弥生時代の周溝墓と南側集落跡を囲うように巡る溝状遺構を確認。古墳時代では前期の周溝墓と4世紀末から5世紀初頭とみられる円形墳墓を伴う低墳丘墓1基を発見した。

敷島町文化財調査報告　第24集

金の尾遺跡 Ⅳ

発行日　2004年（H16）7月15日
発　行　敷島町教育委員会
山梨県中巨摩郡敷島町島上条1020
TEL（055）277－4111
印　刷　株式会社 少国民社